

【科目名】	静岡の市民活動	Civic Activities in Shizuoka		
【開講時期】	2026 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	*木村綾			
【担当教員】	*東野定律、*木村 綾、谷 晃、高畑 幸			
【授業目標】	静岡県内の NPO 等の市民社会組織の活動を理解し、それらへの参画の動機付けとする。			
【授業概要】	各回扱う対象は「授業展開」の通りとする。			
【授業方法】	各回、前半は講義形式で進め、後半は受講生による質疑・討論を重視する。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、市民社会組織の役割と位置づけ(東野、木村) 2. 福祉問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 3. 環境問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 4. 多文化共生を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 5. 男女共同参画を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 6. 市民社会組織を支援する民間の組織について、その現状と課題を学習する。 7. 地域課題の解決やまちづくり活動を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 			
【履修条件】				
【評価方法】	授業への取り組み及びミニレポートで評価する。			
【テキスト】	なし			
【参考書】	別途、適宜各講師が配布する。			
【備考】	<p>授業計画の詳細は最初の授業の際に知らせる。</p> <p>*行政経験、市民活動組織で活動する幹部クラスのスタッフがその実務経験を活かし、学生により現実に即し、理解しやすい講義を行う。</p>			
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講 可	【科目等履修生】	科目等履修生履修可	【交換留学生】

【科目名】	歴史からみるしずおか学	Shizuoka studies from historicalperspective			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	上野雄史				
【担当教員】	上野雄史・村橋 勲・趙彤基				
【授業目標】	本授業は、歴史的観点から「静岡」について学びます。歴史的な事実は客観的に分かるものあれば、主観的に推察されているところもあります。この授業は2つの目標があります。1つ目は歴史的な考え方、捉え方を各講義を通じて身に着けることを目標とします。2 つ目は、静岡の歴史を学ぶことを通じて、地域の課題解決能力に繋がる基礎的な力(知識・論理的思考能力)を身に着けることを目標とします。				
【授業概要】	この授業では、静岡の歴史を中心に学びます。歴史を知るということは、過去を知ることであり、それが現在の我々の立場や将来への道筋を理解し、人生を豊かにする手助けとなります。歴史を学ぶ際には、教室内だけでの講義を超えて、実際の場所に出向き、体験し、探究することが必要です。授業は、本学の教員、静岡市、静岡県、地域の企業、民俗学、郷土史の研究者などのオムニバス講義と、実際のフィールドワークを組み合わせで行います。講義を通じて、受講生は地域の課題解決能力を向上させる基本的なスキル(知識・論理的思考能力)を養います。				
【授業方法】	各講師による講義(必要に応じてディスカッション形式)により行います。以下、補足です。 ①各担当者によって、パワーポイント、配布資料を使用します。必要に応じてビデオを使用します。 ②オムニバス講義なので、毎回の講義のポイントを十分におさえる必要があります。 ③講義内容に関する質問、コメント、ディスカッション内容を発表、提出してもらいます。				
【授業展開】	4 月 15 日(水)① ガイダンス／全地球史からみたしずおか(中西 利典:ふじのくに地球環境史ミュージアム) 4 月 22 日(水)② ジオパークガイドからみた伊豆の魅力(佐野 勇人:伊豆ジオパークガイド、有限会社長香・御宿しんしま) 4 月 30 日(木)③ 南アルプス麓の秘境、井川集落の暮らしと民具(外立 ますみ:常葉大学/神奈川大学非常勤講師) 5 月 13 日(水)④ 徳川家康公と鷹狩り(二本松 康宏:静岡文化芸術大学) 5 月 20 日(水)⑤ 富士山に挑む～紀行文・登山記にみる富士登山(井上 卓哉:静岡県富士山世界遺産センター) 5 月 27 日(水)⑥ 韮山反射炉と江川英龍公(橋本 敬之:NPO 法人伊豆学研究会) 6 月 3 日(水) ⑦ 小泉八雲と焼津(那須野 絢子:常葉大学) 6 月 10 日(水)⑧ 水産業と静岡(川口 円子:静岡産業大学総合研究所) 6 月 13 日(土)/14 日(日)または 6 月 6 日(土)/7 日(日)のいずれかでの日に半日を使って静岡市街でのフィールドワーク調査を実施予定(授業の 3 回分を充当) 6 月 17 日(水)⑨ 静岡空襲(奥野 晃士/静岡平和資料センター) 6 月 24 日(水)⑩ 草薙大龍勢(秋本健:草薙龍勢保存会) 7 月 1 日(水)⑪ 白隠禅師と静岡(勝野 秀敏:龍津寺住職)) 7 月 8 日(水)⑫ まとめ(グループプレゼンテーション)				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	毎回の授業で課すレポート(60 点)、フィールドワーク調査に基づく発表・レポート(20 点)、最終レポート(20 点)				
【テキスト】	授業前後に配布する。				
【参考書】	授業中に提示する。				
【備考】	フィールドワークは、5 月 31 日(土)もしくは 6 月 1 日(日)にフィールドワーク調査を実施予定(授業の 3 回分を充当) 受講生は基本的にこのフィールドワークへの参加を前提として科目を取得してください。3 回分のフィールドワークへの参加が困難な学生は、事情を考慮して対応を検討いたしますので、ueno@u-shizuoka-ken.ac.jp までご連絡ください。				
【社会人聴講生】	受入れ可	【科目等履修生】	受入れ可	【交換留学生】	受入れ可

【科目名】	新聞でもっと静岡を知ろう	Let's learn more about Shizuoka through newspapers !			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡新聞記者				
【授業目標】	今日、新聞を読む学生は少ない。そのような学生に、情報ツールの1つとして新聞を読む習慣を身につけ、現代社会に対する関心を深めてもらう。あわせて、静岡新聞の記者による講義を通じ、県内のみならず県外出身の学生にも静岡について興味関心を持ってもらい、地域社会に対する理解や問題意識を養うことを目的とする。				
【授業概要】	気軽に新聞に触れてもらいながら、SNS とは一味違う情報ツールとしての新聞の活用法を学んでもらう。				
【授業方法】	上記の目的を達成するため、毎回、講義の前半(30 分)は、当日の静岡新聞朝刊の記事をもとに、学部を超えた学生間の交流も兼ねて学生同士で自由にグループディスカッションをしてもらい、そこで出た意見を全員の前で発表してもらう。 後半(60 分)は、静岡新聞の記者が日頃追っている静岡や今日のホットな話題、社会的課題について多角的観点から考察し、質疑応答を通じ理解を深める。講義での学生からの積極的な質問を期待する。				
【授業展開】	1(4/16) ガイダンス・10 分間で新聞を読んでみよう(上原・読者プロモーション局) 2(4/23) 静岡のアニメ文化、観光を探る(論説委員) 3(5/07) 静岡3都物語～新聞記事で読み解く県民性(読者プロモーション局) 4(5/14) 静岡のジェンダーギャップ(生活報道部) 5(5/21) 最後の砦・刑事司法と再審(社会部) 6(5/28) 新聞と電子メディア(デジタル編集部) 7(6/04) 防災報道(社会部) 8(6/11) 変わる教育(教育文化部) 9(6/18) 検証・衆院選(政治部) 10(6/25) The・中小企業～静岡経済を支える(経済部) 11(7/02) 報道カメラマンが見た静岡(写真部) 12(7/09) 「社説」～地方紙は主張する(論説委員) 13(7/16) 静岡サッカーの未来(運動部) 14(7/23) 静岡茶再興の道(経済部) 15(7/30) ワークショップ拡大版(読者プロモーション局) * 講義内容および講義回の入れ替えの可能性がある。				
【履修条件】	講義への積極的な参加を通じ、静岡を知り、興味関心を高めようとする意欲があること。				
【評価方法】	毎回、講義やグループディスカッションの内容、さらには、読んだ記事に関してコメントを書いて提出してもらう。これをもとに総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし。				
【参考書】	特になし。				
【備考】	* 現職の静岡新聞の記者によるオムニバス形式の講義である。 毎回の講義で使用する当日付の静岡新聞朝刊代金合計 450 円(教材価格・1 部 30 円×15 回分)を教材費として、講義の際に徴収する。				
【社会人聴講生】	歓迎する。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	可。

【科目名】	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	Forefront of business in Shizuoka learning from corporate managers			
【開講時期】	2026 年度後期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡県内の企業経営者				
【授業目標】	静岡の経済や産業を支える企業とその魅力を知る。				
【授業概要】	<p>皆さんは静岡県内の企業をどれだけ知っているだろうか。県内にはおよそ 20 万の事業所を抱え、全国4位の製造品出荷額を有する国内有数の工業地域で、産業のデパートとも称される。オートバイ、ピアノなどの輸出量では日本一を誇り、お茶や水産業など第一次産業も盛んである。東西の交通網や港湾を利用した6次産業化も進んでいる。本講義では、静岡の経済や産業を支え、経営革新や新製品・新技術開発、販路開拓等新たな成長分野に積極的に挑戦し、成功を収めている県内企業の経営者や現役社員に登壇頂き、経験に基づく講義を通じ、静岡県ならびに静岡の企業とその魅力を理解することを目指す。加えて、皆さんの就職やキャリアを考えるうえでの一助にしてもらいたい。多くの学生の受講を期待する。</p>				
【授業方法】	企業の経営者や現役社員による講義および学生とのディスカッション。				
【授業展開】	<p>以下は 2025 年度のものである。2026 年度のもの詳細が決まったら掲示する。</p> <p>①(10/06) ガイダンス 本講義の概要説明 ②(10/13) さわやか株式会社 富田 玲 社長 ③(10/20) 株式会社コーヨー 渡邊 俊 副社長 ④(10/27) 株式会社長坂養蜂場 長坂善人 社長 ⑤(11/04) 芝原工業株式会社 芝原利幸 社長 ⑥(11/10) 日研フード株式会社 大橋主弥 取締役 ⑦(11/17) 株式会社テクノサイト 中川泰典 専務取締役 ⑧(11/24) 株式会社清水銀行 岩山靖宏 頭取 ⑨(12/08) 駿遠三菱自動車販売株式会社 大畑勝慶 社長 ⑩(12/15) 株式会社イシダテック 石田 尚 社長 ⑪(12/22) ナガハン印刷株式会社 長橋健太郎 社長 ⑫(01/12) 株式会社 JOINX 齊藤麻衣 社長 ⑬(01/19) 株式会社佐藤工機 佐藤憲和 社長 ⑭(01/26) 雄大株式会社 土屋大雅 社長 ⑮(02/02) 株式会社結屋 川村結里子 社長</p> <p>講師の都合で、講師が変更になったり講義日が変わったりする可能性がある。</p>				
【履修条件】	特になし。毎回の講義への積極的な参加(講師への質問など)が求められる。内職は厳禁である。発見次第、退席を命じる。				
【評価方法】	各回のコメントシート(もしくは小レポート)と講義への参加状況。但し、受講者数等に応じ、変更する可能性がある。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	なし。				
【備考】	* 毎回異なる静岡県内の企業経営者もしくは現役の管理職社員が、これまでの経験をもとに自社のビジネスとその魅力、展望について語るオムニバス形式の講義である。				
【社会人聴講生】	積極的に歓迎する。	【科目等履修生】	積極的に歓迎する。	【交換留学生】	可。

【科目名】	SDGs 概論	Introduction to Sustainable Development Goals	
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限
【科目責任者】	近藤 啓*		
【担当教員】	近藤 啓、谷 晃、宮崎 晋生、孫 暁剛*、その他		
【授業目標】	持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)は、2015 年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。“誰ひとり取り残さない No one will be left behind”をスローガンに、2030 年のあるべき社会の姿を求めて、個人、地域、国、国際レベルで対策を促すものである。SDGs の概念は社会に浸透しつつあり、高校では総合学習等で取り組み、企業は理念に SDGs の目標を掲げている。その中継点であり、最高学府の大学において、学生が SDGs に関する深い知識を身につけることは重要である。本講義では、SDGs の全体目標および 17 目標を理解し説明できる知識を身につけるとともに、広い視野から問題点を分析し、俯瞰的に解決策を立案できる思考法の習得を目標とする。		
【授業概要】	SDGs の目標ごと、それに関連する事象や研究内容を、その専門家である 5 学部の教員が解説する。		
【授業方法】	本講義はオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。教員によっては、オンデマンド講義とする場合がある。		
【授業展開】	<p>第 1 回(4/10、対面) 担当:薬学部 近藤 啓*。ガイダンスで講義全体の流れや成績評価法について説明する。続いて、SDGs 目標の 12. つくる責任 つかう責任、に関して、静岡県内にも幾つか存在する製薬メーカーでの医薬品の研究・開発過程を俯瞰し、有効性、安全性、利便性の観点から幾つかの事例を交えて、考察を加える。</p> <p>第 2 回(4/24、対面) 担当:国際関係学部 湖中 真哉。17. パートナリシップで目標を達成しよう、に関して、地球全体を俯瞰しながら、SDGs とそれが形成されてきた過程やその考え方の基盤を学ぶ。</p> <p>第 3 回(5/1、対面) 担当:国際関係学部 飯野 光浩。1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、に関して、貧困削減と経済成長(Goal 8)との関係、食糧供給と食糧需要と飢餓の関係を経済学、特に開発経済学の観点から講義する。</p> <p>第 4 回(5/8、対面) 担当:看護学部 前野 真由美*。3. すべての人に健康と福祉を、に関して、静岡県に暮らす外国人の健康に関わる中で得られた知見を用いて、説明する。</p> <p>第 5 回(5/15、対面) 担当:食品栄養科学部 角替 弘規*。4. 質の高い教育をみんなに、に関して、教育を巡る世界と日本の状況を概観したうえで、日本における移民の子どもに対する教育について事例を交えながら説明する。</p> <p>第 6 回(5/22、対面) 担当:看護学部 藤田 景子*。5. ジェンダー平等を実現しよう、に関して、DV やデート DV、性暴力の現状に関して国内外や静岡県の事例や現状を用いて、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点をふまえ、説明する。</p> <p>第 7 回(5/29、対面) 担当:食品栄養科学部 増田 修一*。6. 安全な水とトイレを世界中に、に関して、生体内での水の役割、世界の水資源の現状、世界と静岡の環境水の汚染状況、浄水・下水処理法等の解説を通して、水と衛生環境と健康との関わりについて説明する。</p> <p>第 8 回(6/5、対面) 担当:国際関係学部 佐藤 真千子。10. 人や国の不平等をなくそう、に関して、世界の政治的・宗教的迫害の状況と諸外国の取組の他、静岡の企業にも求められる人権とビジネスの問題に対する国内外の取組事例も紹介しながら考察する。</p> <p>第 9 回(6/12、対面) 担当:経営情報学部 上原 克仁*。8. 働きがいも経済成長も、に関して、企業の現状とワークライフバランスへの配慮やジェンダー平等の実現について静岡県を全国と比較したデータを紹介しながら説明する。</p> <p>第 10 回(6/19、対面) 担当:国際関係学部 宮崎 晋生。9. 産業と技術革新の基盤をつくろう、に関して、企業や組織の枠を超えて社会でイノベーションを促す仕組みについて説明する。県内に拠点を置く企業のケースも取り上げる。</p> <p>第 11 回(6/26、対面) 担当:食品栄養科学部 原 清敬*。7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに、に関して、「エネルギーとは何か」および「クリーンなエネルギーとは何か」という視点で説明する。また、静岡県のエネルギー事情について説明する。</p> <p>第 12 回(7/3、対面) 担当:食品栄養科学部 谷 晃。11. 住み続けられるまちづくりを、15. 陸の豊かさを守ろう、に関して、静岡の世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」および「静岡の茶草場(ちゃぐさば)農法」の事例を用いて、説明する。</p> <p>第 13 回(7/10、対面) 担当:食品栄養科学部 谷 幸則。14. 海の豊かさを守ろう、に関して、海洋生態系と多様性、海洋資源利用の現状を説明する。また、静岡県の食に係わる海洋生態系についても触れる。</p> <p>第 14 回(7/17、対面) 担当:国際関係学部 孫 暁剛*。13. 気候変動に具体的な対策を、に関して、気候変動にもなう異常気象や自然災害の影響をもっとも強く受けるアフリカの事例を通して、地域社会の対応とグローバル社会の責任と役割について説明する。</p> <p>第 15 回(7/31、対面) 担当:国際関係学部 北野 嘉章。16. 平和と公正をすべての人に、に関して、ターゲットに</p>		

	登場する「法の支配(the rule of law)」の概念について説明する。静岡県内の関連する取り組みについても紹介する。			
【履修条件】	なし			
【評価方法】	出席状況とレポート、講義への参加度を総合して評価する。			
【テキスト】	プリント配布			
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する。			
【備考】	<p>定員 150 名。受講人数過多の場合、履修制限を設ける場合があるので、第 1 回目の講義には必ず出席のこと。</p> <p>製薬メーカーで医薬品の研究開発に携わった経験のある教員(近藤)が、ものづくりを通じた SDGs への関りについての講義を行う。</p> <p>ボランティア団体、外国人のための無料健康相談と検診会の事務局長の経験を持つ教員(前野)が、すべての人に健康と福祉を、の講義を行う。</p> <p>外国ルーツの児童生徒への教育支援事業を行う NPO において理事及びスタッフとして学習指導を行っている教員(角替)が、移民の子どもの教育の実際について経験を交えながら講義に当たる。</p> <p>助産師としての勤務経験や、DV・デートDV・性教育等に携わった経験のある教員(藤田)が、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点をふまえ、ジェンダー平等に関して講義を進めていく。</p> <p>環境アセスメント会社及び国の研究機関(国立公衆衛生院)での勤務経験のある教員(増田)が、水資源、浄水・下水処理、環境水の汚染状況等について解説する。</p> <p>民間企業等での就業や転職の経験を有する教員(上原)が、日本企業の実態を講義する。</p> <p>食品・発酵企業での勤務経験を持つ教員(原)が、当該分野の実用例を含めた講義を行う。</p> <p>JICA の東アフリカ旱魃支援プロジェクトで専門家として携わった経験のある教員(孫)が、気候変動に伴う自然災害の現状と、地域社会のニーズに対応した具体的な対策について、実例を示して講義を進めていく。</p>			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】

【科目名】	ふじのくにがストロミーニズム: 観る、食べる、学ぶ	Gastronomy Tourism development in Shizuoka			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大久保あかね 内海佐和子 アムナー・カウクルアムアン 上野雄史 岩崎邦彦 鈴木さやか 他				
【授業目標】	ガストロミーニズムの世界的潮流とわが国における実践例を学ぶことを通じて、持続可能な開発目標(SDGs)にも貢献できる静岡型のガストロミーニズムの構築と推進に寄与できる人材の育成に寄与する。				
【授業概要】	<p>ガストロミーニズム(gastronomy tourism)は、長い伝統と食の歴史を持つ欧州を中心に世界各国で取り組まれている。ガストロミーニズムは、「地域の食」の背景に、それを生んだ地域を理解し、楽しむことを目的としたツーリズムであり、その土地と生産者の価値向上や、女性と若者の活躍促進、地域のブランディングと発見に貢献するものである。</p> <p>静岡県は全国トップクラスの 439 品目の農林水産物が生産され、富士山や伊豆半島、南アルプス、浜名湖など多彩な地域資源を持ち、各地に多種多様な歴史資源を持つ。ガストロミーニズムは、地域への所得移転、地域振興という経済振興の側面、地域の歴史・文化、多様性の発信といったサステナビリティな側面といった、複数の側面を併せて持っている。この取り組みは始まったばかりであり、「完成」されたものでない。そこで、本講義では、ガストロミーニズムの概念、実践への理解を深め、講義者・参加者との対話を通じて、静岡型のガストロミーニズムの構築とその推進に寄与していく。</p>				
【授業方法】	本学教員及び、ゲストスピーカーによるオムニバス講義である。必要に応じて、グループによるディスカッションやフィールドワーク等を実施するなど、できるだけ実践に即した知識習得を目指す。				
【授業展開】	<p>第1回 4月16日(木)オリエンテーションとガストロミーニズムの基礎知識(経営情報・大久保)</p> <p>第2回 4月24日(木)静岡の食は「芋」と「魚」(地球環境史ミュージアム館長・佐藤先生)</p> <p>第3回 5月7日(木)静岡のガストロミーニズムの展開(ふじのくにの旬を食べつくす会:岩澤先生)</p> <p>第4回 5月14日(木)伊豆におけるガストロミーニズム(静岡大学・飯倉先生)</p> <p>第5回 5月21日(木)食と観光のマーケティング(経営情報・岩崎先生)</p> <p>第6回 5月28日(木)茶を活かしたガストロミーニズム(経営情報・アムナー先生)</p> <p>第7回 6月4日(木)イタリアにおけるガストロミーニズム(パルマ大・マリオ先生/経営情報・上野先生)</p> <p>第8回 6月11日(木)富士山とインパウンド・ツーリズム(エコロジック 和久井先生)</p> <p>第9回 6月18日(木)東南アジアにおけるガストロミーニズムーベトナムの食文化を中心にー(経営情報・内海先生)</p> <p>第10回 6月25日(木)文学と食(国際・鈴木さやか先生)</p> <p>第11回 7月2日(木)サンセバスチャンにおけるガストロミーニズム(ディスカバリーバスク・沼山先生)</p> <p>第12・13回 7月4日(土)静岡の伝統野菜を探すフィールドワーク(農林環境専門職大・丹羽先生)※2回分</p> <p>第14回 7月9日(木)まとめ①(グループワークによる討議と発表)</p> <p>第15回 7月16日(木)まとめ②(グループワークによる討議と発表・予備日)</p> <p>※講師の予定等でスケジュールが変更になることがあります。</p>				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	授業への取り組み 30%、レポート・プレゼンテーション・小テストなど 70%				
【テキスト】	講義中に適宜提示する。				
【参考書】	講義中に適宜提示する。				
【備考】	7月5日(土)については学外でのフィールドワーク(10時~17時)を実施する予定(詳細は別途提示する)。				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	静岡ゲームチャリティー実践	The Shizuoka Game Charity (practical project)			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	木曜 1 限		
【科目責任者】	ディハーン ジョナサン				
【担当教員】	ディハーン ジョナサン				
【授業目標】	<p>チャリティーイベントの制作を通して、(1)静岡の社会について学び、社会に貢献する、(2)学問的・専門的な知識と技術を身につける。</p> <p>The purpose of this class is for students to, through creating a public charity event: (1) learn about and contribute to Shizuoka society, and (2) develop academic and professional knowledge</p>				
【授業概要】	<p>チャリティーイベントの企画としてミニゲームを作成し、イベント運営で得た募金によって購入したおもちゃ(ブロックや折り紙、ボードゲームなど)を静岡県立こども病院に寄付する。この授業を通して、受講生が以下の知識およびスキルを身につけることを目指す。</p> <p>(1)具体的な静岡の知識:こども病院、チャイルド・プレイ・スペシャリストの仕事、静岡のイベント、静岡の団体、静岡市民、静岡のメディアについて。</p> <p>(2)概念的な知識:チャリティー、ボランティア活動、健康と幸福、プロジェクトの持続可能性、持続可能な開発目標、プロジェクト管理、広報などについて。</p> <p>(3)専門的なスキルと知識:所属学部に関連した知識とスキル(例:病院知識、マーケティング、広報、言語、文化、教育、社会)を身につけ、他学部の学生と協力することで、協調性、コミュニケーション、批判的思考、創造性などの「21 世紀型スキル」を修得する。</p>				
【授業方法】	ショートレクチャー、グループワーク、フィールドリサーチ、ショートレポート、日記作成、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーション、ゲームデザイン、マーケティング活動、イベント企画、メディアデザイン、組織とのコミュニケーション				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトとワークフローの紹介。アイスブレイキングと自己紹介。 2. こども病院とチャイルド・プレイ・スペシャリストについて学ぶ(ショートレポート)。 3. 静岡イベントフィールドワーク(ショートレポート)。 4. 静岡関連コンセプトディスカッション(発表)。 5. プロジェクト・グループの結成(マーケティング・チーム、ゲーム・デザイン・チーム、イベント・ファシリテーション・チーム、病院リエゾン・チームなど)と役割分担・責任分担。 6. ミニゲーム、ミニイベントワークショップ。 7. プロジェクトワーク - ディスカッションとブレインストーミング。 8. プロジェクト作業 - 提案と修正。 9. プロジェクト作業 - プロトタイプと練習。 10. プロジェクト作業 - マーケティング作業、準備。 11-12. プロジェクト作業 - 完成:イベントの開催。(2コマ分を充当) (イベントは6月下旬~7月上旬の土日を想定していますが、具体的な日時はプロジェクトグループで検討し決定します。イベントへの参加はグループの役割によります。) 13. プロジェクト作業 - 寄付。 14. メディアへの報告(新聞、大学、ウェブサイト、ソーシャルメディア)。 15. 来年のクラスのための振り返りと終了メモ。 				
【履修条件】	静岡の社会について学び、貢献することに興味があること、グループワークやプロジェクトワークに興味があること、日本語と英語、さまざまなメディアやテクノロジーを使いこなす意欲があること、チャリティ、ゲーム、遊び、イベントに興味があること。				
【評価方法】	<p>静岡県立こども病院・チャイルド・プレイ・スペシャリスト研究ショートレポート - 10%</p> <p>静岡県地域行事ショートレポート - 10%</p> <p>静岡および関連コンセプトのプレゼンテーション - 10%</p> <p>イベントプロジェクト活動(ディスカッション、ブレインストーミング、提案、修正、試作、実践、マーケティング、準備、完成、寄付) - 40%</p> <p>プロジェクト管理週報と学習記録 - 15%</p> <p>メディア(新聞、大学、ウェブサイト、ソーシャルメディア)への最終報告 - 15%</p>				
【テキスト】	なし。インターネットでの読書やメディア視聴(YouTube など)が課される。				
【参考書】	授業中に資料を配布する。				
【備考】	<p>プロジェクト URL: https://sites.google.com/site/gamelabshizuoka/events/shizuokagamecharityboost</p> <p>このクラスは日本語と英語で行われます。学生は毎回の授業に出席するよう計画してください。</p> <p>This class will be taught in Japanese and English. Students should plan to attend every lesson</p>				
【社会人聴講生】	受入れ可	【科目等履修生】	受入れ可	【交換留学生】	受入れ可 Exchange students are welcome

【科目名】	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	Scientific and practical knowledge of Shizuoka			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	伊藤創平				
【担当教員】	伊藤創平、他				
【授業目標】	持続可能かつ健康長寿社会の実現には、研究開発活動により創造された「知」の活用が必要である。本科目により、静岡県立大学もしくは地域企業発の「知」に対する受講生の価値観を醸成する。				
【授業概要】	日本一高い富士山と日本一深い駿河湾を有する静岡は、多様な農産物のみならず、多様な動植物と遺伝子資源に産んでいる。富士山麓広がる東部地域に医療健康産業、中部地域には食品・化成品産業が集結、大学などの研究機関と協働で研究開発を進めている。ライフサイエンス分野に強みを持つ静岡県立大学では、「地域をつくる、未来をつくる」をキャッチフレーズに、地域の特性を生かした「知」の創造に挑戦している。本科目では、静岡県立大学発もしくは地域企業発の「知」の理解と活用について紹介する。				
【授業方法】	パワーポイントを利用した、対面の講義が基本。				
【授業展開】	1 食と健康 (伊藤創平) 4/14 2 食品の機能性と商品化につながった本学の研究 (寺田祐子) 4/21 3 昆虫を活用した食料生産 (大原裕也) 4/28 4 植物の環境応答 (田村謙太郎) 5/12 5 澱粉の科学 (本田千尋) 5/19 6 静岡のお酒 (鮎信学) 5/26 7 生体触媒の世界 (中野祥吾) 6/2 8 超臨界流体技術の応用 (村上和弥) 6/9 9 食品の安全性と食中毒予防 (島村裕子) 6/16 10 環境調和型プラスチックの開発 (岡本衆資) 6/23 11 生物を構成するタンパク質 (藤浪大輔) 6/30 12 食品中の高分子構造と食感の関係 (梁弘基) 7/7 13 開発業務について (山崎 誠※、(株)はごろもフーズ 開発部) 7/14 14 天然調味料・機能性食品の開発 (望月一輝※、(株)焼津水産化学工業) 7/21 15 農薬企業における研究開発 (河合清※、(株)クミアイ化学工業) 7/28				
【履修条件】	勉学意欲が旺盛な者。				
【評価方法】	・出席回数が 10 回未満の者は単位認定の対象外。 ・1～6 回目、7～12 回目の講義の中から、それぞれ1つレポートを作成。 ・レポートは、ユニバより提出。提出期限は6回目、12回目講義の 1 週間後。 ・13～15 回目は、小課題を講義中に行う。 ・レポートは、ファイル名は、講師名+学籍番号(半角)+学生氏名、pdf で提出。 レポート上部には、レポートのタイトル、講師名、学籍番号、学生氏名を記入。 ファイル名の例 田村先生 202116 静岡太郎.pdf ・レポートは A4 2枚、2000 文字程度。盗作は大幅な減点、0 点になる場合がある。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が紹介します。				
【備考】	講師の都合で予定が変更になる場合があります。 ※企業等における、研究開発実務経験者				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	Global perspectives on Shizuoka
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】 水曜 1 限
【科目責任者】	横井 香織	
【担当教員】	富沢壽勇(副学長、国際関係学部特任教授)、小川 和久(特任教授)、酒井 敏(特任教授)、鴨川 仁(特任教授)、楠城 一嘉(特任教授)、横井 香織(特任准教授)、岩田 孝仁(客員教授)、長尾 年恭(客員教授)、堀 高峰(客員教授)	
【授業目標】	<p>・雄大な富士山や駿河湾があり、豊かな自然と暮らしやすい気候に恵まれているといわれる「しずおか」の自然や歴史・文化を学び、「しずおか」への理解を深める。</p> <p>・「しずおかとは何なのか」という問いに対し、自然科学、人文・社会科学の各分野から多角的にとらえ、何が「しずおか」の課題かを理解したうえで主体的に地域にかかわる力を養う。</p>	
【授業概要】	<p>【前半(1～8回)自然災害、危機管理部門】</p> <p>・南海トラフ、富士火山、津波など、「しずおか」が直面する自然災害の発生のメカニズムや災害に至るプロセスなどを理解する。また、自然災害に対する防災や減災について過去の事例から学び、「しずおか」で起こりうる災害を自分ごととしてとらえ、より望ましい対策を考察する。</p> <p>【後半(9～15回)アジア・太平洋部門】</p> <p>・「しずおか」が歴史的に外的世界とどうつながってきたのかを、特産品であるお茶やかつお節、人々の交流などをテーマに理解を深め、「しずおか」に存在する多様性や多文化を考察する。</p>	
【授業方法】	グローバル地域センターの教員が、オムニバス形式で講義を行う。 パワーポイントと配布資料にそって、講義形式で授業を進める。講義は対面授業で実施する。	
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. しずおかと地震(楠城 一嘉)【4月15日】 2. しずおかと津波(鴨川 仁)【4月22日】 3. しずおかと防災(岩田 孝仁)【4月30日】 4. しずおかと火山(鴨川 仁)【5月13日】 5. 駿河湾から防災・地震予知を考える(長尾 年恭)【5月20日】 6. 宇宙船地球号とその乗組員たち(酒井 敏)【5月27日】 7. しずおかと南海トラフ(地震・ゆっくりすべり)(堀 高峰)【6月3日】 8. 危機管理の死角(小川 和久)【6月10日】 9. しずおかのお茶①製茶機械発展史(横井 香織)【6月17日】 10. しずおかのお茶②お～いお茶誕生物語(笹目正巳:株式会社伊藤園 ※外部講師)【6月24日】 11. しずおかと朝鮮通信使(椿原 靖弘:フェルケール博物館学芸部長 ※外部講師)【7月1日】 12. しずおかのお茶③海を渡っていったしずおかのお茶 海を渡ってきた外国のお茶(加納昌彦:成茶加納株式会社社長 ※外部講師)【7月8日】 13. しずおかとかつお節(川口円子:静岡産業大学客員研究員 ※外部講師)【7月15日】 14. 幕末維新の海外渡航者としずおか(樋口 雄彦:国立歴史民俗博物館 教授 ※外部講師)【7月22日】 15. イスラームとしずおか(富沢 壽勇)【7月29日】 <p>※講義の順番・テーマは変更する場合があります。</p>	
【履修条件】	授業の3分の2以上出席	
【評価方法】	履修条件を満たすこと、及びレポートによる。 レポートは前半(1～8回)から1題、後半(9～15回)から1題。 レポートのテーマは授業の中で提示する。なお、後半「アジア・太平洋部門」では、博物館・資料館で資料収集、取材をしてその成果をまとめる、というレポートを課す予定である。	
【テキスト】	講義ごとに随時プリントを配布する。講義に必要な場合は講義前にユニバーサルパスポートで資料を提示する。	
【参考書】	地震と火山と防災のはなし(楠城 一嘉 編著、成山堂書店) グローバル地域センターホームページ掲載の論文・コラム、各講師の著作とホームページ	
【備考】	—	
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】 履修可
		【交換留学生】 履修可

【科目名】	キャリアデザイン概論	Career Design		
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	水曜 5 限	
【科目責任者】	東野定律			
【担当教員】	* 東野定律 ほか			
【授業目標】	自分の将来をどのように生きていくのか、人生 100 時台において社会人として活躍するためには、自分を知ること はもとより、自分の将来を思い描いていくことが必要だと考えられます。どのように学生生活を歩み、どのように 就職をはじめとした人生の岐路を迎えるのか、基本的な考え方から様々な客観的視点を踏まえて考えることを目 的とします。			
【授業概要】	働き方や生き方を主体的に設計するための基本的な内容はもとより、就職活動を迎えるために必要な内容(就 職活動スケジュール、自己分析、企業研究、エントリーシートの書き方、グループディスカッションや面接(グルー プ・個別等)の概要と対応など)も指導する授業です。また、企業への就職に必要な知識を学習することやコミュニ ケーションの基本である「読み」「書き」「話す」「聞く」に関するスキルについても学習します。			
【授業方法】	学外・学内からさまざまな講師においでいただきお話を伺うほか、ディスカッションなどを予定しています。			
【授業展開】	1 オリエンテーション 2 キャリアとは何か(学外講師を予定) 3 社会人基礎力Ⅰ「企業に求められる人材とは」(学外講師を予定) 4 社会人基礎力Ⅱ「企業に求められる人材とは」(学外講師を予定) 5 自己理解「自分らしい人生の描き方」(学外講師を予定) 6 仕事理解「みんなで検索 実はスゴイ SHIZUOKA 企業」(学外講師を予定) 7 ベンチャー企業とは何か(仮)(学外講師を予定) 8 県大生の就活事情(仮)(学外講師を予定) 9 「今の興味」から「将来」を考えよう！(学外講師を予定) 10 自分の未来は自分でつくる(学外講師を予定) 11 労働法について(学外講師を予定) 12 ライティング「志望動機」(学外講師を予定) 13 自己分析・自己 PR 作成(学外講師を予定) 14 プレゼンテーション法(学外講師を予定) 15 まとめ最終レポートの作成			
【履修条件】	これからの学生生活を充実しようという1年生から、就職活動に入りつつある3年生、そして社会に出ようとする4 年生まで、将来への意欲を高めた人の受講を期待する。			
【評価方法】	小レポート(講義要旨及び感想)、最終レポート			
【テキスト】	必要であれば随時印刷し、配布します。			
【参考書】				
【備考】	授業終了後をはじめ講師の方と懇談の機会等もあるので、積極的に参加してください。			
【社会人聴講生】	社会人聴講生不可	【科目等履修生】	科目等履修生聴講 可。なお、学生と同じ 課題をこなすこと	【交換留学生】

【科目名】	男女共同参画社会とジェンダー	Gender Equal Society and Gender			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	木曜 5 限		
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	男女ひとり一人が対等な立場で、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」(Gender Equal Society、ジェンダー平等社会)の実現は、今日のグローバル社会における普遍的な理念であり、21 世紀日本社会の最重要課題であることを深く認識し、男女共同参画社会およびその中心的概念であるジェンダーについての理解を深め、男女共同参画社会の実現に向けて取り組む問題意識と意欲を身につけることができるようになる。				
【授業概要】	まずはじめに、男女共同参画社会の意義と必要性、ジェンダーの視点の重要性などを概観し、男女共同参画社会の基礎について学ぶ。それをふまえて、以降は、より視野を広げ、男女共同参画社会の実現に向かおうとする今日の社会の現状と課題について、さまざまな領域にわたるテーマを設定し、それらの諸問題をジェンダーの視点から批判的に分析、考察する。				
【授業方法】	講義形式でさまざまな分野にわたる男女共同参画社会とジェンダーについての諸問題を幅広く論じる。				
【授業展開】	<p>以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。</p> <p>第 1 回：イントロダクション</p> <p>第 2 回：性別をめぐる諸問題</p> <p>第 3 回：ジェンダー・セックス・規範、社会化・教育とジェンダー</p> <p>第 4 回：労働とジェンダー(1)労働とジェンダーの歴史的変容と性別役割分業</p> <p>第 5 回：労働とジェンダー(2)労働とジェンダーの格差、不平等構造</p> <p>第 6 回：労働とジェンダー(3)女性労働の課題とワークライフバランス社会</p> <p>第 7 回：家族とジェンダー(1)近代家族の形成、特徴とジェンダー</p> <p>第 8 回：家族とジェンダー(2)家族制度における性差別とドメスティック・バイオレンス</p> <p>第 9 回：リプロダクティブ・ヘルス&ライツとジェンダー(1)母性という幻想とリプロダクティブ・ヘルス&ライツ</p> <p>第 10 回：リプロダクティブ・ヘルス&ライツとジェンダー(2)性と身体、生殖テクノロジー</p> <p>第 11 回：暴力とジェンダー</p> <p>第 12 回：性の商品化とジェンダー</p> <p>第 13 回：性的マイノリティとジェンダー(1)トランスジェンダー</p> <p>第 14 回：性的マイノリティとジェンダー(2)異性愛主義と同性愛差別、性自認と性的指向</p> <p>第 15 回：まとめ—男女共同参画社会の見取り図</p> <p>(取り上げるテーマの順序・内容は変更されることがある)</p>				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	特定のテキストは用いないが、必要な資料がもしあれば、ユニバーサルパスポートを通じてその都度教員が配布、提示する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で提示する。				
【備考】	ユニバーサルパスポートを通じた資料提示、シラバスの修正、補講情報等、教員からの連絡に常に注意すること。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人権を支える社会	The society which human rights support			
【開講時期】	2026 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	坪田光平				
【担当教員】	坪田光平				
【授業目標】	本授業では、人権にまつわる基礎概念について理解を深めるだけでなく、様々な人権問題に関するディスカッションを通じて、人権と社会の相互関係について主体的に考えられるようになることを目的とします。				
【授業概要】	人権って、どこか古臭くて堅苦しそう——そう考えていませんか。体外受精、監視カメラ、AI に至るまで、人権は、科学技術の進展とともに絶えず問い直されていく極めて重要かつ論争的なテーマです。本授業では、人権問題を捉える基本的な視座を概説していきます。また、毎回到わたるグループディスカッションを通して、人権問題を自分事として捉え、問題点や解決策を共同で検討できる場を提供します。				
【授業方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、前半を講義形式で進め、後半はグループディスカッションを行います。 ・グループディスカッションの結果は、授業終盤で発表してもらいます。 ・毎回コメントペーパーの提出を求めます。 ・映像視聴を取り入れたディスカッションを行います。 ・受講生の関心に応じて、シラバスの内容・順序が一部変更になる場合があります。 				
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 無戸籍を生きる人びとから考える 2. 出自を知る権利①: SNS での精子提供 3. 出自を知る権利②: 取り違えられた子ども 4. 幸福追求権①: ブラック校則は問題にできるのか 5. 幸福追求権②: 障害者の問いはなぜ炎上したのか 6. 法の下での平等①: 結婚は親の理解を必要とするのか 7. 法の下での平等②: 結婚を親に反対されたらどうするか 8. 信教の自由①: 宗教虐待のラインを考える 9. 信教の自由②: 宗教二世問題(映像視聴) 10. 表現の自由①: ヘイトスピーチ問題を考える 11. 表現の自由②: SNS で飛び交う差別(映像視聴) 12. 生存権: 生活困窮者を支援すること 13. 教育を受ける権利: 学びの場を分けること 14. 労働権: 性的マイノリティに開かれた職場環境 15. まとめ: 「罪」から人権を捉えかえず(映像視聴) 				
【履修条件】	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションに対して、意欲的に参加できること。 ・単位取得を目的とした安易な履修はお断りします。 				
【評価方法】	①ディスカッションへの参加状況、②毎回のコメントペーパーをもとに総合的に評価します。				
【テキスト】	なし。教員が毎回レジュメを配布します。				
【参考書】	関連する文献は授業中に適宜紹介します。				
【備考】	高い専門性を求めない、主として1・2年生向けの科目として位置付けています。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ジャーナリズム論	Journalism studies		
【開講時期】	2026 年度後期	【開講時限】	金曜 5 限	
【科目責任者】	西恭之			
【担当教員】	* 小川和久、* 西恭之			
【授業目標】	民主主義におけるジャーナリズムの役割と、健康と安全へのリスクの報道の実態を理解し、メディアを通じた情報の受け手と発信者としての能力を高める。			
【授業概要】	災害・医療・食品など様々なリスクの報道を検証し、報道と誤報の構造をメディア組織と心理の両面から分析する。			
【授業方法】	対面授業。グローバル地域センター教員 2 名とゲスト講師がオムニバス方式で講義する。グループワークもおこなう。			
【授業展開】	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ、ジャーナリズム論か 2. メディアが見逃す危機管理の死角 3. 軍事報道が平和と安全を左右する 4. 誤報が平和を妨げる 5. 実名報道 6. ファクトチェック・ジャーナリズム(1) 7. ファクトチェック・ジャーナリズム(2) 8. ジャーナリズムにおける中央・地方とジェンダー 9. ウェブジャーナリズムのゆくえ 10. ノンフィクションをどう書くか 11. 紛争地取材の取り組みと課題(1) 12. 紛争地取材の取り組みと課題(2) 13. 食品・医療・環境のリスク認知 14. 安全・安心をどのように報道するか 15. 誤情報・偽情報対策とその限界 <p>* 講義内容および講義回の入替えの可能性がある。</p>			
【履修条件】	無し			
【評価方法】	レポート 50%、その他の課題 30%、議論への参加 20%			
【テキスト】	小川和久『総理、国防も安全も穴だらけ！国民を守れない国・ニッポン』扶桑社 猪谷千香『その情報はどこから？』ちくまプリマー新書 澤康臣『事実はどこにあるのか』幻冬舎新書 その他配布する。			
【参考書】	小川和久『日本人が知らない台湾有事』文春新書、同『メディアが報じない戦争のリアル』SB 新書、同『フテンマ戦記』文藝春秋、同『危機管理の死角 狙われる企業、安全な企業』東洋経済新報社 その他紹介する。			
【備考】	* 国や自治体の防災・危機管理・安全保障政策の立案と検証に関わっている教員(小川はジャーナリストとしての経験も有する)が、これらの分野におけるジャーナリズムの役割と課題について講義する。また、現役ジャーナリストが、専門分野において担当した報道について講義する。			
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】 受入可

基礎分野Ⅱ

英語科目評価表(令和5年度以降入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP受験なし)

【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E(不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59以下
Low		100-90	89-75	74-60	59以下

【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満	未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		730以上	670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満・未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	可(60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

【科目名】	身体運動科学		【科目英語名】	Sports Science	
【開講時期】	1年通年／編入3年通年	【必修区分】	選択	【単位数】	2単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60時間
【科目責任者】	林 恵嗣				
【担当教員】	林 恵嗣				
【授業の概要】	運動を通して得られる恩恵について知り、運動に対する意欲的な態度を獲得することを目標とする。併せて自己体力の現状も認識することで、生涯、健康で有意義な生活が送られるよう、各々の状況に即した適切な運動方法の習得を目指す。スポーツを行う中で、各人の健康や体力について考える機会とし、心身の健康を保つための方法を学び、ライフスタイルの中へスポーツを取り込めるよう実践する。				
【キーワード】	スポーツ、健康、体力				
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と運動の関わりについて説明できる。 2. 運動を楽しむために、仲間と協力することができる。 3. 自分の体力の現状を判断できる。 4. スポーツ実施に際し、安全について留意できる。 5. 実施種目の競技特性やルールを説明できる。 				
【授業方法】	担当教員が学生の要望に考慮しながら、実施種目を決定する。実技(3/4)及び講義(1/4)を行う。講義は実技の合間を使って行われることもあり、講義室で行われることもある。進め方は、基礎から段階的に基本的技能を習得できるよう実習を進めていく。基本的には対面授業形式をとるが、場合によっては Universal Passport を活用した課題レポート学習を課すこともある。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス ①講義：運動・スポーツの意義 ②実施種目(前期2種目、後期2種目)の決定	適宜、指示する			
第2回	※以下は典型的な例(バドミントン、卓球、パレーポール、バスケットボール)を示す。 バドミントン：基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ルール説明、簡易ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第3回	バドミントン：基本技術の習得(フォア・バックの打ち方、ヘアピン)、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第4回	バドミントン：基本技術の習得(フォア・バックの打ち方、ヘアピン)、ゲーム(シングルス、ダブルス)	適宜、指示する			
第5回	バドミントン：実戦練習、ゲーム(シングルス、ダブルス)	適宜、指示する			
第6回	バドミントン：実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第7回	バドミントン：ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第8回	講義：熱中症の予防と対策	事後：授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)			
第9回	卓球：基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ルール説明、簡易ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第10回	卓球：基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第11回	卓球：基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、実戦練習、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第12回	卓球：基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第13回	卓球：実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第14回	卓球：ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第15回	講義：前期実施種目のルール確認	事後：授業内容に関する小テスト(Universal Passport 利用)			
第16回	講義：応急処置(RICE)について、運動強度を把握する方法	事後：授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)			

第 17 回	バレーボール:基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ルール説明、簡易ゲーム	適宜、指示する	
第 18 回	バレーボール:基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ゲーム	適宜、指示する	
第 19 回	バレーボール:基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ゲーム	適宜、指示する	
第 20 回	バレーボール:基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、実戦練習、ゲーム	適宜、指示する	
第 21 回	バレーボール:実戦練習、ゲーム	適宜、指示する	
第 22 回	バレーボール:ゲーム	適宜、指示する	
第 23 回	ウォーキング・ジョギング	適宜、指示する	
第 24 回	バスケットボール:基本技術の習得(ドリブル、パス、シュート)、ルール説明	適宜、指示する	
第 25 回	バスケットボール:基本技術の習得(ドリブル、パス、シュート、レイアップシュート)、ゲーム	適宜、指示する	
第 26 回	バスケットボール:基本技術の習得(ドリブル、シュート、レイアップシュート)、ゲーム	適宜、指示する	
第 27 回	バスケットボール:基本技術の習得(シュート、レイアップシュート)、実戦練習、ゲーム	適宜、指示する	
第 28 回	バスケットボール:実戦練習、ゲーム	適宜、指示する	
第 29 回	バスケットボール:ゲーム	適宜、指示する	
第 30 回	講義:後期実施種目のルール確認	事後:授業内容に関する小テスト(Universal Passport 利用)	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度		
【履修条件】	用具、施設、教育効果、安全面等を考慮し、履修人数を 40 名に設定する。 各学部開設されている時間帯での履修を原則とする。		
【関連科目】	特になし		
【評価方法】	全開講回数数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 講義への取り組み 70%(DP1-1:到達目標 1~5 に対応)、レポートおよび事後課題 30%(DP1-1:到達目標 1、4、5)とし、受講態度、技術習得度を考慮して総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	事後課題については、Universal Passport 上で解説します。		
【テキスト】	特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。		
【参考図書】	特に定めない。		
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	なし		
【その他】	特になし		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可	【交換留学生】 不可

【科目名】	日本国憲法	The Constitution of Japan			
【開講時期】	1年後期／編入3年	【必修区分】	選択	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義	【授業時間数】			30時間
【科目責任者】	根本猛				
【担当教員】	根本猛				
【授業の概要】	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れる。				
【キーワード】	立憲主義、人権、国民主権、平和主義				
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	国民主権、人権の尊重、平和主義など日本国憲法の基本原理を理解し、簡単な質問に答えられる				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	憲法って何？	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第2回	国民主権と天皇制	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第3回	平和主義1 9条と自衛隊	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第4回	平和主義2 20世紀末以降の展開	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第5回	人権って何？	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第6回	外国人の人権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第7回	法の下での平等	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第8回	人身の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第9回	信教の自由と政教分離	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第10回	表現の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第11回	職業の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第12回	生存権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第13回	教育を受ける権利	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第14回	参政権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第15回	まとめ	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
【準備学習時間】	教科書の該当ページを読んでから授業に臨みましょう				
【履修条件】	特にありませんが、憲法や政治に関心がないと辛いです				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 毎回の課題の評価(90%)と期末試験(10%)で評価する(DP1-1:到達目標1に対応)。				
【フィードバックの方法】	必要に応じて講義内でフィードバックする				
【テキスト】	いちばんやさしい憲法入門／初宿正典ほか／有斐閣アルマ／ISBN 978-4641221505				
【参考図書】	特になし				
【アクティブラーニングを促す方法】	該当なし				

【実務経験のある 教員による授業】	* 憲法を専門とする講師が経験を交えて教授する。			
【その他】	各授業の前にはできるだけ教科書の該当箇所を読んで授業に臨みましょう。 なお、大学生になったら新聞を読もう。そして選挙では投票にも行きましょう。			
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】 不可

【科目名】	教育学	【科目英語名】	Pedagogy
【開講時期】	2年後期／編入3年後期	【必修区分】	選択
【授業形態】	講義	【単位数】	2単位
【科目責任者】	*金 英美(非常勤)	【授業時間数】	30時間
【担当教員】	*金 英美(非常勤)		
【授業の概要】	「看護において教育学がなぜ必要なのか?」という問いから始め、教育学の基本的な考え方である「学ぶこと・教えること」を中心として教育学の基本概念を理解し、看護職における教育学の必要性・重要性和、教育学の理論にもとづいて自身のキャリアを考えられるようにする。その他、多職種との関わり方や多様性に富んだ患者との関わり方について考える。		
【キーワード】	教育学、コミュニケーション、発達、キャリア		
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 人間の発達段階における学ぶことと教えることについて理解する。 2. 「指導」や「学習」に関する基本的知識を理解し、看護業務に活かし方について考える。 3. 看護専門職としてキャリア開発や他職種との関わりによる専門性向上について考える。		
【授業方法】	講義形式を基本とするが、理解を深めるために映像視聴、資料分析を行ない、それをもとにグループワークを行なう。教科書や配布資料は事前に読んでくること。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション(授業の目標と内容、進め方、評価の方法など)	適宜指示する	
第2回	人間の発達と学習1: 看護において教育学は必要か?	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第3回	人間の発達と学習2: 学ぶことと教えること/人間の発達を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第4回	人間の発達と学習3: 学習の原理を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第5回	指導の基本1: 指導者の役割と倫理を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第6回	指導の基本2: 指導を設計する/効果的に指導する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第7回	指導の基本3: 学習を評価する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第8回	指導の技法1: 学習意欲を高める技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第9回	指導の技法2: コーチングの技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第10回	指導の技法3: ディスカッションの技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第11回	キャリア開発と学習1: 看護師としての学習を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第12回	キャリア開発と学習2: 看護職に関わる職種について学習し、関わり方を考える。	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第13回	キャリア開発と学習3: 看護職としてのキャリア開発に向けて学習する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第14回	現代社会の多様性による教育課題を学習する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第15回	まとめ	講義内容をふまえ資料を用いて復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		

【履修条件】	特になし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。授業中の活動及びリアクションペーパー70%、期末テスト 30%で評価する。				
【フィードバックの方法】	・質問、コメント、感想は各授業のリアクションペーパー提出時に受付、次回授業時、または個別に返答を行う。				
【テキスト】	看護のための教育学 第2版 医学書院				
【参考図書】	毎回の授業時に配布するレジュメで紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	日本の国立病院における医療相談職の経験、韓国の教育研究院における教育政策研究の経験を持った教員が、病院内の多職種の間わり方や多様性に富んだ患者の理解及び援助を教育的アプローチに基づいて講義する。				
【その他】	授業計画は受講者との相談により変更することができる。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎セミナー1		【科目英語名】	Seminar in Fundamental Science I	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、* 荒井孝子、* 榊原直喜、* 瀧井妙子、赤路佐希子、* 竹熊カツマタ麻子、* 根岸まゆみ、* 廣瀬允美、* 予定教員、* 枝尻司、* 藤田登志美、* 高橋明味、野呂幾久子(非常勤講師)				
【授業の概要】	科学的根拠に基づいて物事を判断する力を養うために、課題の設定、情報の検索、真偽の検討、結果の要約における基本を理解し、道筋を立て、段階的に考える論理的思考ができるようになる。また、発表、討論、文章作成の基本や手法を学び、表現スキルを身につけ、自分の思考プロセスを他者にわかりやすく説明できるようになる。				
【キーワード】	論理的思考、論理的文章、科学的根拠				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼できる情報源から必要な情報を取得することができる。 2. 課題の設定から結論に至るまでの思考のプロセス、思考の根拠を説明できる。 3. 自分が主張したい内容について他者に判るように発表し、他者の意見や疑問に答えることができる。 4. 科学的表現を用いてレポートを作成できる。 				
【授業方法】	全体でのオリエンテーション、講義の後、グループワーク(プレゼンテーション・レポート作成)を行う。グループは各 10 名程度で、扱うテーマはグループワーク初回にグループメンバーと担当教員で議論して決定する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	科目オリエンテーション、レポートの構造・課題の設定(三崎健太郎)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 2 回	情報検索について、情報検索演習(三崎健太郎) 基礎計算問題演習、文章表現の正確さ(瀧井妙子)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 不正解範囲の復習			
第 3 回	情報検索について、情報検索演習(三崎健太郎) 基礎計算問題演習、文章表現の正確さ(瀧井妙子)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 不正解範囲の復習			
第 4 回	パラグラフライティング・接続詞、プレゼンテーションスキル(三崎健太郎)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 5 回	グループワーク①-1: テーマ設定、発表資料作成(担当教員全員)	事前: 調べたいテーマを考えてくること 事後: 発表資料作成			
第 6 回	グループワーク①-2: 発表資料作成(担当教員全員)	事前・事後: 情報検索、発表資料作成			
第 7 回	グループワーク①-3: 発表資料作成(担当教員全員)	事前・事後: 情報検索、発表資料作成			
第 8 回	グループワーク①-4: 発表、討論(担当教員全員)	事前: 発表資料作成 事後: 討論内容のまとめ			
第 9 回	グループワーク①-5: 発表、討論(担当教員全員)	事前: 発表資料作成 事後: 討論内容のまとめ			
第 10 回	レポートの書き方(三崎健太郎)	事前: テキスト、配布資料を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 11 回	論理的文章の書き方(野呂幾久子)	事前: テキスト、配布資料を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 12 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 13 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 14 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 15 回	まとめ、レポートの提出(担当教員全員)	事前: レポート作成 事後: 講義全体をとおしての自己評価			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 成績は発表・討論 50%(DP2:到達目標 1~3 に対応)、レポート 50% (DP2:到達目標 1~2、4 に対応)で評価する。				
【フィードバックの】	発表に対しては、発表後に担当教員が評価コメントを伝える。レポートに対しては、担当教員が成績確定後に				

方法】	評価コメントを返却する。返却の方法や時期はグループの担当教員と学生で相談して決定する。				
【テキスト】	フレッシュマンセミナーテキスト(最新版)／初年次教育テキスト編集委員会 編／東京電機大学出版局／978-4-5016-2850-5				
【参考図書】	適宜配布・紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師、保健師、薬剤師の実務経験のある教員が、経験を活かした演習を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎セミナー II		【科目英語名】	Seminar in Fundamental Sciences II	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 井上 健一郎				
【担当教員】	* 井上 健一郎				
【授業の概要】	患者の訴え(主訴)から疾患の診断までの思考過程を確立するために、患者背景、身体診察、検査結果の解析・解釈、診断への過程を検証する。 前半で症例理解に資するための画像検査の種類、原理から読影までを概説し、後半ではその知識とこれまでの学習内容を統合させて、提示された症例の検討を教員のディレクションのもとに行う。				
【キーワード】	診断 検査 症例				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 臨床検査や各種画像等のデータの臨床的意味を医学的に理解できる。 2. 臨床で得られる情報(検査・画像データ)を医学的側面からアセスメントに適用・応用できる。				
【授業方法】	講義およびグループワークと発表				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	画像診断概論(画像検査の種類とその意義)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 2 回	単純レントゲン(頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 3 回	造影レントゲン(脳血管系、循環器系、尿路系等)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 4 回	CT (頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 5 回	MRI (頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 6 回	超音波検査の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 7 回	核医学検査の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 8 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の通読 事後:各グループの発表資料の復習			
第 9 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 10 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 11 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 12 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 13 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 14 回	グループワークの結果発表	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:全グループの発表資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	1 年次の必修科目を修了していること。				
【関連科目】	症候論、機能形態学、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はグループワークの発表プレゼンテーション 50% (DP2:到達目標 1~2 に対応)、課題レポート 50% (DP2:到達目標 1~2 に対応)で評価する。				
【フィードバックの	必要時、講義時間内においてコメントする。				

方法】					
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野／医学書院（病態学で使用したテキスト） その他、適宜提示する。				
【参考図書】	イヤート 内科・外科編(最新版)／岡庭豊(編)／メディックメディア／978-4-8963-2853-0 その他、適宜提示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 医師の実務経験のある教員が、経験を生かした演習を実施し、臨床的意義を解説する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュ I	【科目英語名】	Freshman English I		
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習	【授業時間数】	時間 30 時間		
【科目責任者】	*Arshavskaia, E.				
【担当教員】	* Arshavskaia E. (1 クラス)、太田敏郎 (2 クラス)、*青島真澄 (3 クラス)、*久保田育子 (4 クラス)				
【授業の概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。				
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞きできる。 英語の基礎的音声を聞き分け、会話やトークを聴解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。				
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】 語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、アカデミックなリーディング教材を取り入れ英語スキルをブラッシュアップしていく。	【事前・事後課題】 事前学習：必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習：間違えた問題を確認すること。 LUT: Level-up Trainer for the TOEIC Test			
第 1 回	Introduction; Pre-Test	なし			
第 2 回	Part 5 Incomplete Sentences - Grammar (Units 1-6)	LUT: Part5 (U1-6)			
第 3 回	Part 5 Incomplete Sentences - Vocabulary (Units 7-12)	LUT: Part5 (U7-12)			
第 4 回	Part 6 Text Completion (Units 1-12)	LUT: Part6 (U1-12)			
第 5 回	Part 7 Reading Comprehension - Single Passages (Units 1-6)	LUT: Part7 (U1-6)			
第 6 回	Part 7 Reading Comprehension - Double/Triple Passages (Units 7-12)	LUT: Part 7 (U7-12)			
第 7 回	Reading Review	既習事項の復習			
第 8 回	Part 2 Question-Response - Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)	LUT: Part 2 (U1-6)			
第 9 回	Part 2 Question-Response - Statements (Units 7-12)	LUT: Part 2 (U7-12)			
第 10 回	Part 3 Short Conversations - Situations (Units 1-6)	LUT: Part 3 (U1-6)			
第 11 回	Part 3 Short Conversations - Question Types (Units 7-12)	LUT: Part 3 (U7-12)			
第 12 回	Part 4 Short Talks - Organization (Units 1-6)	LUT: Part 4 (U1-6)			
第 13 回	Part 4 Short Talks - Implication (Units 7-12)	LUT: Part 4 (U7-12)			
第 14 回	Listening Review	既習事項の復習			
第 15 回	Practice session	既習事項の復習			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内課題・予習・復習・小テストなど 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技術を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅡ	【科目英語名】	Freshman English II		
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Mostafanezhad M.				
【担当教員】	*Mostafanezhad M. (Class 1)、*Figer R. (Class 2)、*Figer R. (Class 3)、* Mostafanezhad M. (Class 4)				
【授業の概要】	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.				
【キーワード】	communication, writing, reading, paragraph, organization				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.				
【授業方法】	The textbook including an online workbook guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise and edit their writings through the review process.				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
	U: Unit, R: Reading				
第 1 回	Introduction	N/A			
第 2 回	U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain)	U1 R1			
第 3 回	R2 Interview 21 st century job interview	U1 R2			
第 4 回	Writing "how to" paragraph 1: brainstorming & planning	Brainstorming & planning			
第 5 回	Writing "how to" paragraph 2: drafting	Drafting			
第 6 回	Revising & editing	Revising & editing			
第 7 回	Midterm review	Preparing for the review			
第 8 回	U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences)	U2 R1			
第 9 回	R2 Eating with our eyes	U2 R2			
第 10 回	Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives	Brainstorming & planning			
第 11 回	Writing a descriptive paragraph 2: drafting	Drafting			
第 12 回	Revising & editing	Revising & editing			
第 13 回	Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing	Preparing for the project			
第 14 回	Organizing your draft	Drafting			
第 15 回	Term review	Writing and revising a paragraph regarding			
第 16 回	Final examination (in-class or take-home)	the final project			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【関連科目】	N/A				
【評価方法】	More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E"). Preparations, in-class activities (group work discussion and presentation), and quizzes 60%, Exams 40%				
【フィードバックの方法】	Based on pre-submitted assignments, each instructor will give feedback to students in class.				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3 rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考図書】	N/A				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【その他】					
【社会人聴講生】	Not allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅢ	【科目英語名】	Freshman English III
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	演習	【単位数】	1単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*久保田育子		
【担当教員】	*久保田育子（クラス1）、新任教員（クラス2）、新任教員（クラス3）		
【授業の概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEICの出題形式の把握、(iii)リーディング力の強化を平行して行う。		
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC		
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1 英語の基礎的な音声を聞き分けることができる。 2 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。 3 限られた時間内で正確に英文読解できる。 4 英語による簡単なコミュニケーションができる。		
【授業方法】	教科書に沿って、演習形式で授業を進める。授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。		
【授業計画】	【授業内容】 ★テキスト(T) TOEIC Test Trainer Target 650	【事前・事後課題】 事前学習：必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習：間違えた問題を確認すること。	
第1回	Introduction	なし	
第2回	(T) Unit 1 提案・時制 1	(T) Unit 1	
第3回	(T) Unit 2 確認時制 2（進行形・完了形）	(T) Unit 2	
第4回	(T) Unit 3 会話を始める助動詞	(T) Unit 3	
第5回	(T) Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング	(T) Unit 4	
第6回	(T) Unit 5 義務代名詞	(T) Unit 5	
第7回	(T) Unit 6 理由前置詞	(T) Unit 6	
第8回	Midterm Review	既習事項の復習	
第9回	(T) Unit 7 苦情接続詞	(T) Unit 7	
第10回	(T) Unit 8 交通情報スキヤニング	(T) Unit 8	
第11回	(T) Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞	(T) Unit 9	
第12回	(T) Unit 10 意見分詞構文	(T) Unit 10	
第13回	(T) Unit 11 意見の一致・不一致仮定法	(T) Unit 11	
第14回	(T) Unit 12 会議ースキミング	(T) Unit 12	
第15回	Final Review	既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。		
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ		
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内課題・予習・復習・クイズ 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。（詳細は初回の授業で案内する）		
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。		
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)		
【参考図書】	なし		
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。		
【その他】	特になし		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
		【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅢ		【科目英語名】	Freshman English III	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Arshavskaia E.				
【担当教員】	*Arshavskaia E. (クラス 4)				
【授業の概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEIC の出題形式の把握、(iii)リーディング力の強化を平行して行う。				
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。 2 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。 3 限られた時間内で正確に英文読解できる。 4 英語による簡単なコミュニケーションができる。				
【授業方法】	教科書に沿って、演習形式で授業を進める。授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。				
【授業計画】	【授業内容】 ★テキスト(T) TOEIC Test Trainer Target 470	【事前・事後課題】 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。			
第 1 回	Introduction	なし			
第 2 回	(T) Unit 1 予定_動詞_5文型	(T) Unit 1			
第 3 回	(T) Unit 2 数量を尋ねる_名詞	(T) Unit 2			
第 4 回	(T) Unit 3 命令_依頼_形容詞_副詞	(T) Unit 3			
第 5 回	(T) Unit 4 広告_宣伝_フレーズリーディング	(T) Unit 4			
第 6 回	(T) Unit 5 時間を尋ねる_動名詞	(T) Unit 5			
第 7 回	(T) Unit 6 場所を尋ねる_to 不定詞	(T) Unit 6			
第 8 回	Midterm Review	既習事項の復習			
第 9 回	(T) Unit 7 確認_分詞	(T) Unit 7			
第 10 回	(T) Unit 8 留守電_スキミング	(T) Unit 8			
第 11 回	(T) Unit 9 アドバイス_受動態	(T) Unit 9			
第 12 回	(T) Unit 10 誘い_比較	(T) Unit 10			
第 13 回	(T) Unit 11 申し出_関係詞	(T) Unit 11			
第 14 回	(T) Unit 12 講演者紹介_スキミング	(T) Unit 12			
第 15 回	Final Review	既習事項の復習			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向かった授業内課題・予習・復習・クイズ 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 470 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅣ		【科目英語名】	Freshman English IV	
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*Arshavskaia E.				
【担当教員】	*Arshavskaia E. (クラス1)、*Figer R. (クラス2)、*Figer R. (クラス3)、*Mostafanezhad M. (クラス4)				
【授業の概要】	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic settings				
【キーワード】	communication, writing, reading, critical thinking, paragraph, essay, organization				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs. Students can correct and edit their own writings.				
【授業方法】	The textbook including an online workbook guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to expand, revise and edit their writings through the review process.				
【授業計画】	【授業内容】	R: Reading	【事前・事後課題】		
第1回	Introduction		N/A		
第2回	U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages)		U3 R1		
第3回	R2 Classrooms without walls		U3 R2		
第4回	Writing a summary and personal response 1: brainstorming & planning		Brainstorming & planning		
第5回	Writing a summary and personal response 2: drafting		Drafting		
第6回	Revising & editing		Revising & editing		
第7回	Midterm review		Preparing for the review		
第8回	U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions)		U3 R1		
第9回	R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram)		U3 R2		
第10回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming & planning		Brainstorming & planning		
第11回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching		Drafting		
第12回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting		Revising & editing		
第13回	Revising & editing 1		Preparing for the project		
第14回	Revising & editing 2		Drafting		
第15回	Term review		Writing and revising a paragraph regarding the final project		
第16回	Final examination (in-class or take-home)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅡ				
【評価方法】	More than five absences will result in failure (i.e., a grade of "E"). 60% (in-class activities and homework) + 40% (Mid-term exam, Final presentation)				
【フィードバックの方法】	Based on pre-submitted assignments, each instructor will give feedback to students in class.				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考図書】	Not used				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【その他】					
【社会人聴講生】	Not allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語コミュニケーションⅠ	【科目英語名】	English Communication I
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	演習	【単位数】	1単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*Figer R.		
【担当教員】	*Figer R. (クラス1)、*青島真澄 (クラス2)、*Mostafanezhad M. (クラス3)、*久保田育子(クラス4)		
【授業の概要】	コミュニケーション能力の向上には基礎となる1)文法力の定着、2)パラグラフリーディングの訓練、3)語彙力の強化、4)英語音声の特徴への慣れ、5)素早い理解が必要である。本授業では時間を計測しながら TOEIC 形式の実践問題に繰り返し取り組み、つまづく箇所を確認しつつ、1)～5)を促進する。また、テキストの音源を活用したアウトプットの練習を行うことでリスニング力の強化も図る。		
【キーワード】	タイムド・リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC 実践		
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を理解できる。 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 科学、医療に関連する内容を英語で簡潔に話すことができる。		
【授業方法】	実践演習を行い、レベル毎につまづく箇所を教員と確認・復習する。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	Introduction	なし	
第2回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1)	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1)の復習	
第3回	Listening Parts 3 & 4	Listening Parts 3 & 4の復習	
第4回	Reading Parts 5 & 6	Reading Parts 5 & 6の復習	
第5回	Reading Parts 7	Reading Parts 7の復習	
第6回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2)	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2)の復習	
第7回	Listening Parts 3 & 4	Listening Parts 3 & 4	
第8回	Midterm review	既習事項の復習	
第9回	Reading Parts 5 & 6	Reading Parts 5 & 6	
第10回	Reading Parts 7	Reading Parts 7	
第11回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3)	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3)	
第12回	Listening Parts 3 & 4	Listening Parts 3 & 4	
第13回	Reading Parts 5 & 6	Reading Parts 5 & 6	
第14回	Reading Parts 7	Reading Parts 7	
第15回	Review	既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	復習を必ず行うこと。		
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ/Ⅲ		
【評価方法】	開講回数 4/5 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内活動・復習課題・小テストなど 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)		
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。		
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+ (アルク)		
【参考図書】	なし		
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。		
【その他】	感染症拡大等の状況によっては、遠隔授業を実施する。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可
		【交換留学生】	不可

【科目名】	英語コミュニケーションⅡ		【科目英語名】	English Communication Ⅱ	
【開講時期】	2年後期／編入4年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*Mostafanezhad M.				
【担当教員】	*Mostafanezhad M. (クラス1)、*Figer R. (クラス2)、*新任教員 (クラス3)、*久保田育子 (クラス4)				
【授業の概要】	グローバル化が急速に浸透し、英語コミュニケーション力が不可欠になってきた現代において、日本あるいは海外の医療現場で直面するさまざまな文化・社会・価値観を理解し、具体的な状況に適切に対応できる英語力が必要である点を重視し、授業ではアクティブラーニングを実践して「看護英語」の習得に努め、コミュニケーションに積極的に参加する態度を養う。				
【キーワード】	ESP、実践英語、コミュニケーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を理解できる。 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を理解できる。 科学、医療に関連する内容を英語で簡潔に話すことができる。				
【授業方法】	授業は教科書に沿って進めて行く→まず、医療・看護に関する単語の知識を修得する。また、リスニング教材を通して英語表現の音に慣れるとともに使用される場面の理解に努める。まとめとして、学習した表現や文法事項を用いて、英語運用能力の促進を目指す。具体的にはペア・ワークやグループ・ワークなどを積極的に取り入れて実際の場면을想定しながら多様化した言語活動を行っていく。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	授業の進め方・評価方法について説明。英語自己紹介。	なし			
第2回	Unit 1: Meeting Patients	Unit 1 の予習、次週クイズの準備			
第3回	Unit 2: Taking a Medical History	Unit 2 の予習、次週クイズの準備			
第4回	Unit 3: Assessing Patients' Symptoms	Unit 3 の予習、次週クイズの準備			
第5回	Unit 4: Taking Vital Signs	Unit 4 の予習、次週クイズの準備			
第6回	Review: Units 1-4 小テスト1	既習事項の復習			
第7回	Unit 5: Taking a Specimen	Unit 5 の予習、次週クイズの準備			
第8回	Unit 6: Taking Medical Examinations	Unit 6 の予習、次週クイズの準備			
第9回	Unit 7: Assessing the Pain	Unit 7 の予習、次週クイズの準備			
第10回	Unit 8: Advising about Medication	Unit 8 の予習、次週クイズの準備			
第11回	Review: Units 5-8 小テスト2	既習事項の復習			
第12回	Unit 9: Improving Patients' Mobility	Unit 9 の予習、次週クイズの準備			
第13回	Unit 10: Maintaining a Good Diet	Unit 10 の予習、次週クイズの準備			
第14回	Unit 11: Caring for Inpatients	Unit 11 の予習、次週クイズの準備			
第15回	Unit 12: Coping with Emergencies Review: Units 9-12 小テスト3	Unit 12 の予習、プレゼンテーション準備			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	予習・復習を必ず行うこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅡ/Ⅳ				
【評価方法】	開講回数 4/5 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向かった授業内課題・事前学習・授業内課題・クイズ 60%、試験・プレゼンテーション 40%で評価する。授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	Caring for people: Student Book(医療分野で働くためのコミュニケーションコース)(Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	感染症拡大等の状況によっては、遠隔授業を実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

專 門 基 礎 分 野

【科目名】	身体と心のセクシュアリティ		【科目英語名】	Human sexuality	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必須	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 藤田景子				
【担当教員】	* 藤田景子、* 中川有加、* 永谷実穂、* 福島恭子、* 大和田裕美、* 長屋和美、* 高橋明味				
【授業の概要】	人間にとっての性、基本的人権としての性について、セクシュアリティの概念やその特徴をもとにとらえ、具体的に、男女の身体の違いから、性ホルモンの変化、性感染症、避妊 等、性に関する課題を明確にし、対処方法や自分の考えを深める機会とする。				
【キーワード】	セクシャリティ、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、多様性				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関連する基本的な概念について理解し、身体的・心理的・発達の・社会文化的な観点から説明できる。 2. 人間の生活行動に影響するセクシュアリティの多様性について、関心を持つことができる。 3. セクシュアリティの発達、性意識・性行動、性の健康について、関心を持つことができる。 4. 性感染症、避妊、人工妊娠中絶、性暴力など、性に関する課題に関心を持ち、意思決定の方法や対処方法について考えることができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	セクシュアリティの概念、基本的人権としての性（中川有加）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 2 回	セクシュアリティの発達と課題（大和田裕美）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 3 回	プレコンセプションナル・ケア、ライフプラン、大学生の性、性の健康（長屋和美）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 4 回	性行動と性意識：現代の日本人の実態と性規範、若者の性意識・性行動の実態（福島恭子）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 5 回	性感染症と人工妊娠中絶（高橋明味）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 6 回	性暴力、デートDV、DV の視点からみた暴力と健康～被害者・加害者にならないために～（藤田景子）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 7 回	更年期障害とシニア世代のセクシュアリティ（永谷実穂）	事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。			
第 8 回	まとめ（藤田景子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、大和田裕美、長屋和美、高橋明味）	事前：全講義の内容を復習する。 事後：全講義の資料を用いて復習する。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 小レポート 100% (DP2・DP5: 到達目標 1～4 に対応) で評価する。レポートは、ルーブリック評価表を用いて評価し、全てのレポートと評価表は採点して返却する。				
【フィードバックの方法】	小レポートに書かれていた質問や疑問に対して回答する。回答は、一週間後以降に講義の中で解説するか、あるいはユニバに掲示する。				
【テキスト】	特に指定しない				
【参考図書】	講義の中で適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 助産師として臨床実務経験豊富な教員が、その経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人間関係論Ⅰ		【科目英語名】	Human RelationsⅠ	
【開講時期】	1年前期／編入3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 篁宗一				
(担当教員)	* 篁宗一、* 近藤美保、* 小泉祐貴、* 佐藤浩一、* 予定教員				
【授業の概要】	一生涯を通じての精神的な発達について知識を深め、自からの体験を振り返りながらその過程とライフイベントの影響を理解する。さらに、ストレスやその対処方法についての基本的知識を学ぶ。これらのことを通して、看護の対象となる人間の本質・特性に関する理解を深め、看護師としての人間関係や業務の中で生じる各種ストレスへの対処方法を学ぶ。				
【キーワード】	ライフステージ、メンタルヘルス、生涯発達、ストレス				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 人は一生涯を通じて精神的に発達する。その過程とそこでの問題点を理解し説明することができる。 2. ストレスやその対処方法についての基本的知識を学び、説明することができる。				
【授業方法】	講義を中心として行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	人間関係論の概要（篁宗一）	事前：該当ページの予習 事後：配布資料の復習			
第2回	発達段階Ⅰ 誕生から3歳まで（篁宗一）	事前：1回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第3回	発達段階Ⅱ 3歳から学童期まで（近藤美保）	事前：2回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第4回	発達段階Ⅲ 思春期から青年期まで（佐藤浩一）	事前：3回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第5回	発達段階Ⅳ 成人前期から成熟期まで（近藤美保）	事前：4回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第6回	発達段階Ⅴ 老年期（予定教員）	事前：5回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第7回	ストレスについて～ストレス自己診断・他（小泉祐貴）	事前：6回目提示の課題を行う 事後：配布資料の復習			
第8回	まとめ（篁宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	人間関係論Ⅱ				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 定期試験 70% (DP1-2: 到達目標 1~2 に対応)、レポート 30% (DP2: 到達目標 1~2 に対応) で評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題はユニパの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントする。				
【テキスト】	生涯人間発達論（第3版）／服部祥子／医学書院／978-4-260-04133-1				
【参考図書】	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論／長谷川浩／医学書院／978-4-260-35528-5				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして講義を行う。				
【その他】	講義予定は変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人間関係論Ⅱ		【科目英語名】	Human Relations Ⅱ	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	選択/必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員、* 篁宗一、* 近藤美保、* 小泉祐貴、* 佐藤浩一				
【授業の概要】	社会的存在としての人間と、人間を取り巻く環境や人間関係の中で生じる様々なストレスやストレス対処についての理解を深める。さらに、歴史的経過の中で、人間を対象として看護を行ってきた看護師自身のストレスの存在を知り、現代における対処方法を知ること、看護師自身の精神的健康維持に活用する力を養う。				
【キーワード】	ライフステージ、メンタルヘルス、生涯発達、ストレス				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 人間(及び看護師)を取り巻く環境や人間関係の中で生じる様々なストレスについて理解を深め、それについて説明することができる。 2. ストレスの対処方法としてのリラクゼーションについて、説明することができる。				
【授業方法】	講義が中心であるが、講義内容に応じてグループワークや演習等を取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	社会的存在としての人間 (篁宗一)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 2 回	危機の概念と予防・危機介入①(佐藤浩一)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 3 回	危機の概念と予防・危機介入②(佐藤浩一)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 4 回	看護師のストレス・感情労働について (小泉祐貴)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 5 回	ストレス・コーピングについて (小泉祐貴)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 6 回	リラクゼーションに関連する理論について (予定教員)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 7 回	リラクゼーションの方法・実践 (近藤美保)	事前: 該当内容の予習 事後: 学びをリアクションペーパーにて提出			
第 8 回	まとめ(篁宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	人間関係論Ⅰ				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 レポート 70%(DP2: 到達目標 1~2 に対応)、課題学習 30%(DP1-2: 到達目標 1~2 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題はユニパの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントする。				
【テキスト】	生涯人間発達論 (第3版) / 服部祥子 / 医学書院 / 978-4-260-04133-1				
【参考図書】	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 / 長谷川浩 / 医学書院 / 978-4-260-35528-5				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション / ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習 / フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	臨床心理学	【科目英語名】	Clinical Psychology		
【開講時期】	2年後期／編入3年後期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義	【授業時間数】	15時間		
【科目責任者】	*小泉祐貴				
【担当教員】	*非常勤講師(水越三佳・矢野陵子・山本弘一) *小泉祐貴、*篁宗一、*近藤美保、*佐藤浩一、*予定教員				
【授業の概要】	臨床心理学の目的は、人間の不適応な行動や心の問題を理解し、より健康な方向に導くために、知識と技術を駆使して、人を援助することである。 本講義では、[1]臨床心理学とは何か、[2]心に表れる様々な症状について、[3]代表的な心理療法とカウンセリング、[4]看護場面における患者理解と関わり方について学び、人間理解を深めるとともに、援助法について実習する。				
【キーワード】	メンタルヘルス、マインドフルネス、心理、カウンセリング				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 人間の不適応な行動や心の問題を理解し、説明できる。 2. 目の前にいる悩み苦しむ人に対し、どのように援助・治療するのか、知識や技術の基本について説明できる。				
【授業方法】	講義を中心とするが、簡単なワークやロールプレイング、具体的な臨床事例を用いたディスカッションなどの実習・実技、ビデオ教材なども取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	臨床心理学とは～事例から心理学的アプローチを学ぶ (水越三佳)	事後:配布資料の復習			
第2回	精神科病院における臨床心理学 1 (矢野陵子)	事前:1回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第3回	精神科病院における臨床心理学 2 (矢野陵子)	事前:2回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第4回	児童虐待の臨床 (水越三佳)	事前:3回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第5回	一般病院における臨床心理学 1 (山本弘一)	事前:4回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第6回	一般病院における臨床心理学 2 (山本弘一)	事前:5回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第7回	心理検査実習～自らの性格特徴をつかみ、看護に役立てる (水越三佳)	事前:6回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第8回	まとめ(篁宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一・予定教員)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数 2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 課題学習 70%(DP1-2:到達目標 1~2に対応)、課題学習 30%(DP2:到達目標 1~2に対応)を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	・授業についての質問等は、授業終了時に実施する、またはメールや次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題は、評価終了後、適宜教員よりコメントする。				
【テキスト】	プリントを配布する。参考書を授業で提示する。				
【参考図書】	随時紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる心理職等が、その経験を活かして講義を行う。				
【その他】	講義の順番等、講義予定は変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	静聴できる方は可	【科目等履修生】	静聴できる方は可	【交換留学生】	静聴できる方は可

【科目名】	健康行動論		【科目英語名】	Health Behavior	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	西田公昭(非常勤)				
【担当教員】	西田公昭(非常勤)				
【授業の概要】	現代人の健康を脅かす要因には、嗜癖や生活習慣がある。人は身体に悪いと知りながらそうした行動を繰り返している場合も多い。また医師や看護師の指導を守らず自殺的な行動をとる人もいる。そうした問題をどう理解するか健康心理学的基礎を講義する。健康心理学とは社会心理学の応用であり、本講義では、大まかには、1)態度および社会的認知:医療に関わる社会問題の心理学的理解、2)行動と精神との相互影響過程:メンタル・ヘルスや治療の社会的要因、3)行動変容や態度変容の理論的基礎について述べる。				
【キーワード】	習慣的行動、非合理的思考、心理・社会的影響				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 健康や病気についての心理的なメカニズムを理解して、患者や一般人のみならず医療従事者の行動を科学的に検討できるようになる。				
【授業方法】	講義形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	健康、医療と心理学:身体・社会・心理の関係について	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 2 回	迷信や代替医療の危険な事例	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 3 回	非科学的な代替信念と行動の心理的メカニズム	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 4 回	自己制御と健康管理	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 5 回	ストレスの影響過程	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 6 回	バーンアウトと自殺の心理	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 7 回	親密な関係における虐待と健康増進	事後課題:講義の内容をノートにまとめる			
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	統計学への基礎的理解があること				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。リアクション課題(毎回)100%で評価する(DP2:到達目標 1 に対応)。				
【フィードバックの方法】	質問には次回講義時にフォードバックする。				
【テキスト】	特になし 必要に応じてプリントを配布する。				
【参考図書】	特になし				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	他学部の学生については、事情を聞いた上で受講を認める。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	運動と健康の生理学		【科目英語名】	Physiology of Exercise and Health	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	林 恵嗣				
【担当教員】	林 恵嗣				
【授業の概要】	運動時、ヒトの身体では様々な調節系が互いに影響しながらも精密に制御されています。本講義では、まず運動時における身体の生理的な反応を理解し、どのように調節されているかを学びます。その後、運動を行うことの意義や健康との関連について学びます。				
【キーワード】	身体、筋肉、循環、呼吸、体温、生活習慣病				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 運動時におけるエネルギー供給システムや呼吸・循環・体温調節システムを説明できる。 2. 生活習慣病の予防や症状改善のためにどのような運動が必要かを説明できる。 3. 様々な条件において、どのような運動が健康の維持・増進に貢献するかを考えることができる。				
【授業方法】	講義形式で実施します。毎回、課題を設定するので、次回授業までに課題を行ってください。また、毎授業の最後にコメントペーパーを提出してもらいます。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	筋収縮とエネルギー供給系: 筋線維の構造やエネルギー供給の仕組みを概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 2 回	筋の収縮様式と筋力: 筋収縮の様式、速筋線維や遅筋線維の特徴等を概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 3 回	運動と循環: 心臓の働きや血圧の調節等を概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 4 回	運動と呼吸: 呼吸の仕組み、酸素摂取量や無酸素性作業閾値について概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 5 回	運動と体温調節: 体温調節の仕組みや運動時の熱放散システムについて概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 6 回	運動と生活習慣病: 運動と生活習慣病の関わりについて概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 7 回	老化に伴う身体機能の変化: 加齢に伴いこれまで説明した身体の調節システムがどのように変化するかを概説する。また、健康づくりのための身体活動基準についても概説する。	事後: 授業内容に関する課題 (Universal Passport 利用)			
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 事後課題 30%(DP2、DP5:到達目標 1~3 に対応)と期末試験 70%(DP2:到達目標 1~3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	事後課題については、Universal Passport 上で解説します。 コメントペーパーに記載された質問等については、次回授業時に回答します。				
【テキスト】	授業時にプリントを配布します。				
【参考図書】	入門運動生理学 第 4 版/勝田茂編著/杏林書院/978-4-7644-1159-3 栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 改訂第 2 版/麻見直美、川中健太郎編集/羊土社/978-4-7581-1376-2				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	健康環境論		【科目英語名】	Environmental Health Sciences	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義		【授業時間数】	15 時間	
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、* 荒井孝子、赤路佐希子				
【授業の概要】	ヒトの生活と健康の護り手となるために、人類・生命の生存、健康に影響を与えている環境問題とは何か、そもそも、生存や健康を脅かしてきたものは何かについて学び、ヒトと環境の関わり、およびそれに伴って生じてきた諸問題とそれへの対策について理解し、現在の地域・地球環境の中で「健康に生きる」ための方法を見出せるようになることを目指す。				
【キーワード】	オゾン層、地球温暖化、化学物質汚染、感染症、生態系				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 生命・人類が地球環境から影響を受けてきたこと、また影響を与えてきたことについて再認識する。また、「大気汚染」「水汚染」「廃棄物」「エネルギー」「生物多様性」などに関する地球レベル・地域レベルでの環境問題、世界で起きている環境問題の現状と日本との関わり、またそれらへの対策に関する知識を、科学的な考え方に基づいて修得している。 2. 上記の知識をふまえて人間と自然の健全な関係性を構築していく方法を探求し考察できるようになり、医療人としての「環境」における役割を提案できる。				
【授業方法】	テキスト、および適宜、プリントを追加して講義形式で進めていく。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	生命の進化と環境(生存圏)、オゾン層(三崎健太郎)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 2 回	地球温暖化・森林破壊問題(三崎健太郎)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 3 回	エネルギー問題・放射性物質・廃棄物問題(三崎健太郎)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 4 回	感染症、水質汚染と対策、酸性雨(赤路佐希子)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 5 回	大気汚染・室内環境とアレルギー(赤路佐希子)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 6 回	看護と環境問題(荒井孝子)	授業中にミニレポートを提出			
第 7 回	生物濃縮、生物多様性(三崎健太郎)	事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 30 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	公衆衛生学、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は課題レポート 80% (DP2:到達目標 2 に対応)、ミニテスト 20% (DP1-2:到達目標 1 に対応)によって総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	ミニテストの解説を次回に実施する。				
【テキスト】	地球環境保全論 持続可能な社会をめざして／和田武(編著)、小堀洋美(著)／創元社／ISBN978-4-422-40063-1				
【参考図書】	環境科学要論 現状そして未来を考える、第 3 版／世良力／東京化学同人／ISBN978-4-8079-0759-5 地球環境学入門、第 3 版／山崎友紀／講談社／ISBN978-4-06-521469-5 GEO5 地球環境概観第 5 次報告書 私達が望む未来の環境 上／国連環境計画(編)／環境報告研／ISBN978-4-9907839-0-7 地球環境学事典／総合地球環境学研究所(編)／弘文堂／ISBN978-4-335-75013-7 その他の参考図書は適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	医療・看護経済論		【科目英語名】	Medical and Nursing Economics	
【開講時期】	2年前期／編入3年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*東野 定津				
【担当教員】	*東野 定津、*野口 理子				
【授業の概要】	医療・看護サービス提供に関する諸問題を経済学の基本概念・理論を適用して検討し、看護における経済の意味を考察する。				
【キーワード】	医療看護サービス、医療経済、マネジメント				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護行政的課題の内容を把握し、その解決策を考察することができる。 2. 医療看護分野における経済学的な視点を持ち、その必要性について考えることができる。 3. 看護におけるマネジメントを中心とした基礎的知識を習得し、今後の看護を考えることができる。				
【授業方法】	基本的に講義は受講者の理解を促すためにPP資料の配付、関連資料を準備し、説明を行う。医療・看護における経済学に関わる基礎的知識を習得するプログラムとなっている。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	経済学の基礎知識①(野口理子)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第2回	経済学の基礎知識②(野口理子)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第3回	行動経済学と意思決定(野口理子)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第4回	わが国の看護提供システムとサービス・ケアマネジメント (東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第5回	看護必要度と看護サービスの質の評価(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第6回	地域包括ケアと地域医療連携の実態(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第7回	グループワーク(東野定津)	事前: グループワークに向けた資料収集 事後: プレゼン内容を整理			
第8回	発表と全体まとめ(東野定津)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績はミニレポート60%(DP1-2:到達目標1~3に対応)、最終レポート40%(DP1-2:到達目標1~3に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	資料は適宜用意し、配布する				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*担当教員においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	国際看護論		【科目英語名】	Global Health Nursing	
【開講時期】	2年後期／編入3年後期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	* 竹熊カツマタ麻子、* 根岸まゆみ				
【授業の概要】	諸外国の社会・経済・教育・文化的背景や医療の実際を学び、国内外におけるグローバル化社会と医療格差の現状を理解することができる。国際協力や多文化共生社会における看護・医療活動のあり方を考え、異文化対応能力の基礎を身につけることができる。				
【キーワード】	国際看護、在留外国人、異文化対応能力				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1-1 <input checked="" type="checkbox"/> DP1-2 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 <input type="checkbox"/> DP6				
【到達目標】	1. 国際看護とは何か、またその必要性を説明できる。 2. 国内外の医療格差と看護の背景・現状を説明できる。 3. 国際保健医療における看護職の役割を考察することができる。				
【授業方法】	講義、COIL 授業、グループディスカッション・プレゼンテーション、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	授業ガイダンス・課題説明&国際看護概論（竹熊カツマタ麻子）	事前：教科書「第4章 国際看護 A」を通読 事後：課題レポート提出			
第2回	世界の保健医療システムと課題（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出			
第3回	身近な事象からグローバルヘルスを考える（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理			
第4回	国外の医療格差と看護（COIL 授業：ゲスト講師、竹熊カツマタ麻子、根岸まゆみ）	事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出			
第5回	文化を考慮した看護①：在留外国人によるパネルディスカッション（在留外国人ゲスト、根岸まゆみ）	事前：教科書「第4章国際看護学 D」を通読 事後：課題レポート提出			
第6回	文化を考慮した看護②：異文化看護まとめ（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理			
第7回	グローバルな視点を持った国際協力多文化共生社会における看護の役割（竹熊カツマタ麻子、根岸まゆみ）	事前：グループプレゼンテーションの準備 事後：グループプレゼンテーションの評価			
第8回	まとめ（予定教員）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	国際保健・災害看護論の履修				
【関連科目】	国際保健・災害看護論				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 グループワーク 30% (DP5: 到達目標 1~4 に対応)、グループプレゼンテーション 30% (DP5: 到達目標 1 と 4 に対応)、課題レポート 40% (DP1-2: 到達目標 1~4 に対応)、全ての採点基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	課題レポートとグループワークへのフィードバックは授業時に口頭で行う。グループプレゼンテーションのフィードバックはルーブリックを用いフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③／浦田喜久子・小原真理子他／医学書院／ISBN 978-4-260-03570-5				
【参考図書】	Where there is no doctor: Village health care handbook／David Werner／Macmillan Education／ISBN-13: 978-0-333-51651-5 ほか講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 国内外で看護師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	事前面談必要	【科目等履修生】	事前面談必要	【交換留学生】	事前面談必要

【科目名】	機能形態学 I		【科目英語名】	Anatomy and Physiology I	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 井上 健一郎				
【担当教員】	* 井上 健一郎、* 荒井 孝子、* 武田英孝(外部講師)				
【授業の概要】	人間の体を構成する細胞・組織・臓器の構造を系統的に学び、その特性を理解する。その上で、各器官・臓器の構造と機能的役割を把握する。人体の各臓器が独自の働きをしているとともに、他の臓器と協調することで生体のホメオスタシスを維持していることを学ぶ。				
【キーワード】	組織、解剖、臓器、細胞				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人体を構成する細胞、組織、器官、臓器の構造を総論的に理解する。 2. 組織、器官について各論的に構造を理解し、その機能的役割を把握する。 3. 人体の各臓器が独自の働きをしているとともに、他の臓器と協調することで生体のホメオスタシスを維持していることを理解する。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。必要に応じてオンデマンドを活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	総論：人体の構造と機能を理解するための生物学と化学の基礎(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 2 回	総論：体部の形態に関する名称と用語(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 3 回	リンパ系、免疫系(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 4 回	心臓、血管系、血液(荒井孝子)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 5 回	消化器系(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 6 回	消化・吸収のメカニズム(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 7 回	呼吸器系(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 8 回	ガス交換、呼吸のメカニズム(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 9 回	泌尿器系、尿生成のメカニズム(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 10 回	内分泌系/筋・骨格系(井上健一郎)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 11 回	中枢神経系 I (武田英孝)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 12 回	中枢神経系 II (武田英孝)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 13 回	末梢神経系(武田英孝)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 14 回	自律神経系、感覚器系(武田英孝)	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	機能形態学 II、症候論、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は定期試験 100% で評価する(DP1-2: 到達目標 1~3 に対応)。				

【フィードバックの方法】	必要時、次回講義内で説明する。				
【テキスト】	eテキスト【系統看護学講座 専門基礎分野】人体の構造と機能[1] 解剖生理学／坂井建雄(著)／医学書院／978-4-260-04687-9 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック(最新版)／坂井建雄(著)／医学書院／978-4-260-03824-9				
【参考図書】	新版 からだの地図帳／佐藤達夫監修／講談社／978-4062610254				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 臨床実務経験(医師、看護師)を有する教員が担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	機能形態学 II		【科目英語名】	Anatomy and Physiology II	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 井上 健一郎				
【担当教員】	* 井上 健一郎、* 荒井 孝子				
【授業の概要】	人間の正常な生命活動を理解し、その病的変化を捉え対処できるための基礎知識を獲得する。正常な臓器、器官、組織の病理組織学的構造と生理学的機能に対する広い知識を身につけ、エビデンスに基づいた看護を行うための基礎的思考を養う。また、病態と看護を統合するための演習を行うことにより、専門基礎科目と看護専門科目の統合的思考の基盤を身につける。				
【キーワード】	病理 腫瘍 機能異常				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人体を構成する細胞、組織、器官、臓器の病理組織学的構造を総論的に理解する。 2. 組織、器官について各論的に構造を理解し、その機能的役割を把握する。 3. 代表的な疾患に関して、関連臓器の構造や機能の変化を理解できる。 4. 看護における問題解決につなげるための病態生理とメカニズムについて理解できる。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。必要に応じオンデマンドも活用する。視覚的教材も用いながら、学生同士での協同した学習も行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	総論：細胞・組織の障害、再生と修復(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 2 回	循環障害(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 3 回	炎症(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 4 回	免疫とアレルギー(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 5 回	腫瘍(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 6 回	循環器系の病理(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 7 回	呼吸器系の病理(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 8 回	看護過程につながる病態関連図 1 (講義)(荒井孝子)	当日演習のガイダンスを行う 事後：課題学習			
第 9 回	看護過程につながる病態関連図 2 (GW)(荒井孝子)	事前：GW 課題の準備 事後：GW 後のまとめと準備			
第 10 回	看護過程につながる病態関連図 3 (GW)(荒井孝子)	事前：GW 課題の準備、スライド作成 事後：GW 後のまとめ、プレゼン準備			
第 11 回	看護過程につながる病態関連図 4 (プレゼンテーション)(荒井孝子)	事前：スライド、プレゼン資料の準備 事後：リフレクション提出			
第 12 回	消化器系の病理(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 13 回	内分泌系の病理(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 14 回	臨床検査・画像診断(井上健一郎)	事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	機能形態学 I、生物化学の単位を取得していること				
【関連科目】	機能形態学 I				
【評価方法】	開講回数数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。				

	成績は定期試験 70%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、個人課題 20%(DP1、2:到達目標 4 に対応)とグループワークによる課題プレゼンテーション 10%(DP1、2:到達目標 4 に対応)により総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	必要時講義時間内においてコメントする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進[1]/大橋健一(著)/医学書院/ 978-4-260-04203-1				
【参考図書】	適宜、指示する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*臨床実務経験(医師、看護師)を有する教員が担当する。他学部生は履修不可。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	生物化学		【科目英語名】	Biological Chemistry	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、赤路佐希子				
【授業の概要】	近年に入り、生命現象を化学的に説明し、生体の営みを物質代謝の集積と捉え追求する学問(=生化学)が成立し、医学の進歩に大きく貢献している。医療人である看護師として必須の、患者の状態や病気の治療に関して生物、化学の両側面から理解する基礎力を身につけるために、細胞の微細構造、生命体の構成成分とその役割、それらの構成成分の代謝(中間代謝物の化学構造とその重要性、物質代謝とエネルギー産生、酵素反応の特性と補酵素の役割など)や遺伝情報代謝に関する生化学的知識を学び、生命科学現象の理解、糖尿病やがんなど代表的疾患の成立の生物化学的な理解につなげていけるようになる。				
【キーワード】	細胞、生体構成成分、酵素、物質代謝、遺伝情報				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する成分について、構造と機能に関する知識を修得している。 2. 生体を構成する成分の代謝とそれらの相互関係についての知識を修得している。 3. 上記の知識を基にして、生体を構成する成分の代謝の維持と機能の維持を関連づけられる。 4. 上記の知識を基にして、生体を構成する成分の代謝の不調が疾患の原因となることを理解している。 				
【授業方法】	テキストに沿って講義形式で進めるが、重要部分については補足資料を用い詳述する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	生体を構成する水と電解質(pH、酸塩基平衡を含む)(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 2 回	糖質(赤路佐希子)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 3 回	タンパク質(赤路佐希子)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 4 回	酵素(ビタミンと補酵素を含む)(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 5 回	脂質(赤路佐希子)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 6 回	細胞内刺激伝達(ホルモン・生理活性物質と受容体)(赤路佐希子)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 7 回	生体内刺激伝達(ホルモンの分泌調節)(赤路佐希子)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 8 回	生体内成分の代謝の全体像と相互関連(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 9 回	糖質代謝と糖尿病(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 10 回	脂肪酸、ステロイドの代謝と脂質異常症(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 11 回	タンパク質、アミノ酸代謝(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 12 回	ポルフィリン代謝と黄疸(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 13 回	プリン・ピリミジン・ヌクレオチドの代謝と高尿酸血症(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 14 回	遺伝情報代謝とがん(三崎健太郎)	事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	高校の生物、化学の基礎知識を習得していることを前提として授業を展開する。				
【関連科目】	症候論、微生物学、基礎健康科学演習、臨床薬理学、臨床栄養学、病態学				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はミニテストの総得点を 30%(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)、定期試験の得点を 70%(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)に換算して評価する。				
【フィードバックの方法】	ミニテストは次回講義時に解説する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学:人体の構造と機能[2] / 畠山鎮次 / 医学書院 / ISBN978-4-260-03556-9				
【参考図書】	はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 改訂第2版 / 前野正夫・磯川桂太郎 / 羊土社 / ISBN978-4-260-03556-9 イラストレイテッド生化学 原書7班 / 石崎泰樹・丸山 敬(監訳) / 丸善 / ISBN978-4-621-30351-1 Essential 細胞生物学 原書第5版 / 中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇(訳) / 南江堂 / ISBN978-4-524-22682-5 基本を学ぶ看護シリーズ1 自然科学の基礎知識を知る / 草間朋子・青山洋右・松本純夫(監修)、今井秀樹・高木晴良・松本和史・草間朋子(著) / 東京化学同人 / ISBN978-4-8079-1800-3				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション / デイバート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎健康科学演習		【科目英語名】	Health Science Lab Fundamentals	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	* 井上健一郎				
【担当教員】	* 井上健一郎、* 荒井孝子、* 濱井妙子、三崎健太郎、赤路佐希子				
【授業の概要】	健康状態を多面的に判断し、人の身体や健康に影響を与える病因を分析する手法を学び、今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得する。前半では、機能形態学実験(体の構造を理解する)、症候論実験(生体の機能、臨床検査値を理解する)を行って、ヒトの全身を診る能力を身につける。後半では、微生物学実習(微生物の形態的・生化学的特徴を理解する)、生化学実習、環境実習(健康と環境の関係の理解を深める)を行って、人の健康に影響を与える要因を知り対応できる能力を身につける。				
【キーワード】	器官・組織、心電図・呼吸機能、血液・尿検査、微生物検出、放射線測定				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの実験を通じて、適切な実験の手順や方法、結果を整理している。 2. 臓器の微細構造を顕微鏡で観察し、臓器の形態と機能を関連させて理解し、人体の構造と機能を細胞の働きから考察できる。 3. 心電図、スパイロメトリー測定、血液・尿検査実施の注意点と臨床的意義を理解し、自分の血液・尿検査、心電図の結果から、健康状態を査定してその根拠を説明できる。 4. 微生物学実験を通じて、微生物の特徴、検出方法や取り扱いを理解し、感染制御について微生物学の視点から判断できる。 5. 生化学・環境実験を通じ、放射線の種類と生体を防護する原則などについて説明できる。 				
【授業方法】	実習テキストを中心に実験を行う。それぞれの実験の目的、方法、予想される結果に関連する基礎知識を予習、復習することが必要である。対面実習は自らの手で行い、結果の観察、測定、スケッチ、記録しながら結果を科学的に考察し、実験ノートにまとめる。実験実習のため、実験の内容と操作を解説した動画をオンデマンドで配信し、実験当日までに事前学習をして実験ノートに必要事項を記載した上で、実習当日に自らの手で実験を行い、基礎医学系の講義(座学)で得た知識を実証し考察することで、理解を深めるとともに科学的思考の習得につなげるアクティブ・ラーニングの方法をとる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	オリエンテーション、臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、赤路佐希子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 2 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、赤路佐希子、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 3 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、赤路佐希子、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 4 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 5 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 6 回	血液検査(1):血糖値からわかることの理解(実習講義:荒井孝子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 7 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 8 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 9 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 10 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかることの理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			

第 11 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかること の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 12 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかること の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 13 回	尿検査:一般検査(pH、比重)からわかる腎機能(クレアチニン・ クリアランス等)の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教 員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 14 回	尿検査:一般検査(pH、比重)からわかる腎機能(クレアチニン・ クリアランス等)の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教 員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 15 回	末梢血液像の顕微鏡観察:白血球の種類と特徴、5 種類の細 胞のバランスの理解(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全 員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 16 回	心電図測定:心電図測定の基礎、正常波形の理解(実習講義: 荒井孝子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 17 回	呼吸機能測定:呼吸機能測定の基礎、換気機能の理解(実習 講義:赤路佐希子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 18 回	血液・尿検査結果分析(実習講義:井上健一郎、演習:担当教 員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 19 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習 講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 20 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習 講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 21 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習 講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 22 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定①(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 23 回	細菌の染色法と顕微鏡観察(実習講義:三崎健太郎、演習:担 当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 24 回	細菌の染色法と顕微鏡観察(実習講義:三崎健太郎、演習:担 当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 25 回	手指付着細菌の検出と手洗い・手指消毒薬の効果判定①(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 26 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定②(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 27 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定②(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 28 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定③(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 29 回	手指付着細菌の検出と手洗い・手指消毒薬の効果判定②(実 習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして 実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 30 回	抗微生物薬の効果判定(講義:三崎健太郎、演習:担当教員全 員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして

	員)	実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年前期の機能形態学 I、生物化学の単位を取得していること	
【関連科目】	機能形態学 I-II、生物化学、症候論、微生物学、健康環境論	
【評価方法】	全出席が単位認定の前提である。ただし、履修要項に定める追試験受験条件にあてはまる事由に対しては補実習を行い、定期試験受験を認める。自己都合による遅刻、途中放棄、欠席については補実習の対象とはならないので定期試験の受験を認めない。 成績は定期試験 60% (DP1-2:到達目標 2~5 に対応)、実験ノート 40% (DP2:到達目標 1~5 に対応) で評価する。なお、定期試験、実験ノート、それぞれが満点の 6 割以上をもって合格とする。	
【フィードバックの方法】	提出課題の解説は授業の中で実施する。	
【テキスト】	基礎健康科学実習テキスト(担当教員が編集・事前配布) e テキスト【系統看護学講座 専門基礎分野】解剖生理学 人体の構造と機能①(最新版)／坂井建雄／医学書院／978-4-260-04687-9(機能形態学 I でも使用) 系統看護学講座 別巻 臨床検査(最新版)／奈良信雄 他(編)／医学書院／978-4-260-03573-6(症候論でも使用) 今すぐ看護ケアに活かせる心電図のみかた(最新版)／藤野智子(編)／978-4-524-25951-9(症候論でも使用) 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④(最新版)／吉田真一／医学書院／978-4-260-03183-7(微生物学でも使用)	
【参考図書】	(実習室保管テキスト) 顕微鏡検査ハンドブック 臨床に役立つ形態学／菅野治重 他(編)／医学書院／978-4-260-01554-7 di Fiore 人体組織図譜／相磯貞和(訳)／南江堂／978-4-524-26004-1 ネッター解剖生理学アトラス／相磯貞和・渡辺修一(訳)／南江堂／978-4-524-23856-9 みえる人体 構造・機能・病態ネッター解剖生理学アトラス／南江堂／978-4-524-25071-4 人体の構造と機能 はじめての解剖生理学／金澤寛明／南江堂／978-4-524-26448-3 グラム染色からの感染症診断／田里大輔・藤田次郎／羊土社／978-4-7581-1739-5 感染症診断に役立つグラム染色／永田邦昭／Signe／978-4-910-44002-6 図鑑細菌／鈴木智順(監修)／技術評論社／978-4-774-18277-3 戸田新細菌学／吉田真一 他(編)／南山堂／978-4-525-16114-9 改訂版 看護と放射線／日本アイソトープ協会(編)／丸善出版／978-4-89073-284-5 その他、必要に応じて後日提示する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション ■D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 医師、看護師、薬剤師の実務経験のある教員が、経験を生かした演習を実施し、臨床的意義を解説する。	
【その他】	・実習には積極的に取り組み、科学実験を安全に行うためには細心の注意をもって、正確な実験を行う落ち着いた態度が必要である。白衣、実験ノート、色鉛筆を準備のこと。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	症候論		【科目英語名】	Symptomatology	
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*井上 健一郎				
【担当教員】	*井上 健一郎				
【授業の概要】	臨床の現場で遭遇する種々の症状や徴候の発現機序を病理生理学的に理解できる。各症候からその原因疾患・病態を絞り込める知識と分析能力を身につける。得られた患者情報(症候・徴候・臨床検査データ等)から理論的思考によって遡及的に原因となる疾患に帰着しうる能力の育成を図る。				
【キーワード】	症状 病態 疾患				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 様々な疾患に共通にみられる症状や徴候を病態生理学的に理解できる。 2. 患者の容態を的確に把握し、その原因を考察できる。 3. 症状や症候を明らかに分析するための臨床検査の解釈ができる。 4. 病態に沿った治療・処置を理解し、病態経過の予測ができる。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	症候論総論(1)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第2回	症候論総論(2)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第3回	意識障害等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第4回	嚥下困難、悪心、嘔吐等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第5回	咳嗽、胸痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第6回	血便、下痢・便秘等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第7回	高血圧、ショック等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第8回	頭痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第9回	中間まとめ				
第10回	発熱等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第11回	腹痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第12回	浮腫、不整脈等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第13回	貧血、黄疸等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第14回	臨床検査	事前:教科書及び実習教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、生物化学の単位を取得していること				
【関連科目】	機能形態学Ⅰ、生物化学				
【評価方法】	開講回数2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績は定期試験100%で評価する(DP1-2:到達目標1~4に対応)。中間試験(12月中旬に施行)で7割				

	以上得点すれば期末試験を免除とし修了を認める。期末試験は 1 度のみ行う(健康上の理由以外再試験は行わない)。				
【フィードバックの方法】	必要時、講義時間内においてコメントする。				
【テキスト】	<p>ナースが症状をマネジメントする！症状別アセスメント／塚本容子他(著)／メジカルフレンド社／978-4-8392-1602-3</p> <p>今すぐ看護ケアに活かせる心電図のみかた(最新版)／藤野智子(編)／南江堂／978-4-524-25951-9 (基礎健康科学演習でも使用)</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床検査(最新版)／奈良信雄他(編)／医学書院／978-4-260-03573-6 (基礎健康科学演習でも使用)</p>				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 臨床実務経験(医師)を有する教員が担当する。他学部生は履修不可。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	微生物学		【科目英語名】	Microbiology	
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	内藤博敬(非常勤)				
【担当教員】	内藤博敬(非常勤)				
【授業の概要】	微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の分類、微細構造・形態学的特徴、生化学的性状・生物学的特徴、増殖、感染について概説する。様々な病原微生物がどのように感染症を引き起こすかについて、感染源、感染経路、宿主の生体防御機構(免疫)を含めて概説する。様々な滅菌・消毒法(消毒薬を含む)の特徴・適用、治療薬、現在の感染症動向、新興・再興感染症の特徴や国としての予防対策について概説する。				
【キーワード】	細菌、ウイルス、感染症、免疫、感染症法				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な感染症の原因病原体及び病原因子、発症機構、予防・診断・治療法を説明できる。 2. 生体防御免疫について説明できる。 3. 様々な滅菌・消毒法の性質・適用を理解し、実践できる。 4. 感染症動向と感染症法について、適切な情報を得て説明することができる。 				
【授業方法】	講義形式で行う。テキストに添って、実際の微生物・感染症の病態の写真等を独自にまとめて作成したスライドを使用して行う。また、講義前に講義内容のプリントを設問形式で配布し、講義後に模範解答を配布する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	微生物学概論				
第2回	微生物と微生物学	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第3回	細菌1(形態学的特徴)	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第4回	細菌2(生化学的特徴)	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第5回	ウイルス	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第6回	真菌、原虫および寄生虫	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第7回	感染と感染症、第1部小テスト	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第8回	感染経路	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第9回	生体防御機構1(自然免疫)	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第10回	生体防御機構2(獲得免疫)	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第11回	細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第12回	感染症予防／消毒・滅菌	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第13回	感染症の検査と治療	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第14回	感染症の現状と対策	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
第15回	まとめ・期末考査	プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。				

	成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)。				
【フィードバックの方法】	小テストは期末試験に向けた模擬考査(期末試験がこういった形式で行われるか体感する)として行う。実施後に採点して返却する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 ④/南嶋洋一 他(著)/医学書院/978-4-260-04702-9				
【参考図書】	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 /増澤俊幸(著)/羊土社/978-4-7581-0975-8 わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂3版/藤本秀士他(著)/南山堂/978-4-525-16233-7 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物/矢野 久子 他(編)/メディカ出版/978-4-8404-7526-6				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	臨床薬理学	【科目英語名】	Clinical Pharmacology
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	2単位
【授業形態】		【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 新任教授		
【担当教員】	* 新任教授、伊藤由彦		
【授業の概要】	<p>ナースとしての専門職に要求されるのは、患者に投与する薬に対する十分な知識と服用の効果と副作用を正しく評価する能力である。すなわち、薬の作用機序(薬理作用)、効果発現までの時間、効果持続時間、吸収と排泄、期待される効果、予測される副作用、他の薬(食品)との相互作用などを科学的に理解した上で、患者に薬を服用してもらうことが必要である。総論では、薬とは、薬の働き、薬の体内動態、からだに薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、神経・精神系薬、循環器系薬、呼吸器系薬、胃腸薬、利尿薬、内分泌系薬、生殖器系薬、糖尿病薬、痛風薬、抗アレルギー薬など個々の医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。</p>		
【キーワード】	薬物療法, 薬物動態, 副作用		
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物が体内に入ってから消えるまでの過程について説明できる。 2. 代表的な治療薬について、薬物が効果を示すメカニズムについて説明できる。 3. 薬物の好ましくない作用について、そのメカニズムを説明できる。 		
【授業方法】	テキストおよびパワーポイント(液晶プロジェクター)を用いて講義形式で授業を行う。授業の理解を深めるため、必要に応じてプリントを配布する。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	第1章 薬理学総論 1.1-1.2(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第2回	第1章 薬理学総論 1.3(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第3回	第1章 薬理学総論 1.4-1.5(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第4回	第1章 薬理学総論 1.6-1.8(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第5回	第6章 炎症と免疫疾患に対する薬物(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第6回	第13章 悪性腫瘍に対する薬物(新任教授)	事前: 講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後: 教科書章末の演習問題により理解を深める。	
第7回	第2章 末梢神経系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。	
第8回	第3章 中枢神経系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。	
第9回	第11章 代謝性疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後: 小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。	
第10回	第10章 内分泌系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前: 配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。	

		事後:小テストの内容を調べて、ユニバで確認テストを受験する。	
第11回	第5章 血液疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニバで確認テストを受験する。	
第12回	第4章 循環器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニバで確認テストを受験する。	
第13回	第9章 泌尿器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニバで確認テストを受験する。	
第14回	第7章 呼吸器系疾患に対する薬物、第8章 消化器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニバで確認テストを受験する。	
第15回	まとめ		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	薬理学は、基礎科目ではあるが、薬物療法を理解する上で非常に重要な科目である。薬理学は非常に幅の広い学問であるため、講義ですべてを網羅することは難しい。受講者は、予習・復習をしっかりと行い、疑問点については教員に確認して解決するよう努めるなど、意欲的に授業に出席することが望ましい。		
【関連科目】	特になし		
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験(100%)で評価する(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)。		
【フィードバックの方法】	ユニバの Q & A で講義に関する質問を受け、できるだけ早く回答する。		
【テキスト】	コメディカルのための薬理学 第4版/渡邊泰秀・安西尚彦・大内基司(編)/朝倉書店/978-4-254-33012-0		
【参考図書】	今日の治療薬/川合真一 他編/南江堂/978-4524203345		
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし		
【実務経験のある教員による授業】	* 薬剤師実務経験を有する教員が、実臨床で用いられる代表的な医薬品や薬物治療に関する基本的知識を講義する。		
【その他】	特になし		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可	【交換留学生】 不可

【科目名】	臨床栄養学		【科目英語名】	Clinical Nutrition	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 新井英一				
【担当教員】	三好規之、林 久由、三浦進司、江口智美、桑野稔子、串田 修、* 保坂利男、* 新井英一				
【授業の概要】	<p>食べることの意味や何をどのくらい食べるのがよいのかといった基本的な理解を促し、栄養素の消化・吸収、代謝、ホルモンと食事との関連、食物摂取に対する生体の反応や適応の仕組みを理解することを目標とする。さらに生活状況に由来する栄養の問題を学び、健康の維持・増進のための食事、食生活の基盤を理解することを目的とする。</p>				
【キーワード】	栄養素の消化・吸収・代謝、栄養状態の評価、栄養ケア・マネジメント				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の基本的概念およびその役割を説明することができる。 2. 摂食行動から栄養素の消化・吸収・代謝とその生理的意義を説明することができる。 3. 栄養評価と栄養ケア・マネジメントの方法を説明することができる。 				
【授業方法】	<p>板書、パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式でおこなう。講義終了後に確認テストによって知識を定着させ、重要事項の確認を促す。</p>				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	<p>栄養素の種類とはたらき(糖質、脂質、たんぱく質) (三好規之)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 2 回	<p>栄養素の種類とはたらき(ビタミン、ミネラル、食物繊維、水) (三好規之)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 3 回	<p>食物の消化と栄養素の吸収・代謝(消化と吸収) (林 久由)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 4 回	<p>食物の消化と栄養素の吸収・代謝(代謝と食欲調節) (林 久由)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 5 回	<p>体内のエネルギーバランス(食品、体内のエネルギー) (三浦進司)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 6 回	<p>食品と食事(食事摂取基準) (三浦進司)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 7 回	<p>食品と食事(食品群と食品表示) (江口智美)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 8 回	<p>食品と食事(食品の調理と食事の変遷) (江口智美)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 9 回	<p>ライフステージと栄養(乳児期から青年期) (桑野稔子)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 10 回	<p>ライフステージと栄養(成人期から高齢期) (串田 修)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 11 回	<p>栄養ケア・マネジメント、臨床栄養(1) 病院食と栄養補給法 (新井英一)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 12 回	<p>臨床栄養(2) 内分泌・代謝疾患 (保坂利男)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 13 回	<p>臨床栄養(3) 消化器疾患 (新井英一)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 14 回	<p>臨床栄養(4) 循環器疾患 (保坂利男)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習</p>			
第 15 回	<p>臨床栄養(5) 腎臓、血液疾患、他 (新井英一)</p>	<p>事前: 講義該当部分のテキスト熟読 事後: テキスト・資料等を用いて復習、 定期テストの準備</p>			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	機能形態学 I、生物化学				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 毎回の確認テストおよび定期テストの合計により、100 点満点で 60 点以上を合格とする (DP1-2: 到達目標 1~3 に対応)。				
【フィードバックの方法】	確認テストの正解例を配布する。 質問についてはメールにて受け付け、必要に応じてユニパを通じてフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学第 13 版 / 中村丁次他著 / 医学書院 / 978-4-260-03861-4 配布するプリント				
【参考図書】	必要時講義内で紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション / ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 () <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当者のうち、医師、管理栄養士の実務経験のある教員が、その経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	病態学		【科目英語名】	Clinical Pathology	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	* 荒井孝子				
【担当教員】	* 佐藤匠(非常勤)、* 四ノ宮健太(非常勤)、* 川合麻実(非常勤)、* 佐藤辰宣(非常勤)、 * 三枝美香(非常勤)、* 齋藤優(非常勤)、* 田中 聡(非常勤)、* 長井幸二郎(非常勤)、 * 有安宏之(非常勤)、* 金剛(非常勤)、* 袴田康弘(非常勤) * 西田正人(非常勤)、* 渡邊昌也(非常勤)、* 大端考(非常勤)、* 瀧雄介(非常勤)、 * 間浩之(非常勤)、* 八木宏明(非常勤)、* 森本恵理子(非常勤)、* 広瀬正秀(非常勤) * 佐藤真輔(非常勤)、* 恒吉裕史(非常勤)、* 佐藤宰(非常勤)、* 速水亮介(非常勤)、 * 松岡秀明(非常勤)、* 金本秀行(非常勤)				
【授業の概要】	1. 内科学は臨床医学の土台をなす学問である。臨床の場でよく目にする疾患を軸に、各臓器別に臨床症状、検査項目、治療法について系統的に講義する。内科学がカバーする範囲は膨大であり、限られた時間の講義ではごく一部の疾患についてしか教授できない。自己学習が特に重要である。 2. 外科的侵襲に対する生体反応、組織損傷の修復機序、ショックの基本的病態の理解と神経および血管反応および細胞レベルでの代謝、輸血・輸液・栄養補給の理論と投与方法など、病態の理解に基づく外科的治療(術前・術中・術後、救急救命)への取り組みについて、その特性と最近の動向を踏まえて講義する。さらに、外科的治療に伴う倫理的課題についても講義する。				
【キーワード】	系統別・疾患別の病態、検査、治療、看護				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 外科的・内科的疾患の発生・進展に関する病態およびそれに伴う検査・治療について理解を深め、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 2. 主な外科的治療および術前・術中・術後管理に関連した基礎的医学知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 3. 救命・救急を要する外来での治療・処置に必要な医学的知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。				
【授業方法】	講義は対面授業を基本とする。 1. 内科学: 各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 2. 外科学: 各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 テキストは事前・事後学習に利用し、授業においては、テキスト、配布資料や動画などを用いて講義する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(佐藤匠)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 2 回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(四ノ宮健太)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 3 回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(川合麻実)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 4 回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(佐藤辰宣)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 5 回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(三枝美香)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 6 回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(三枝美香)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 7 回	内科:血液疾患の主症状・臨床検査・病態(齋藤優)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 8 回	内科:自己免疫疾患の原因・臨床検査・病態(田中聡)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 9 回	内科:腎疾患の主症状・臨床検査・病態(長井幸二郎)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 10 回	内科:内分泌疾患の原因・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 11 回	内科:代謝性疾患の主症状・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 12 回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(金剛)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 13 回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(金剛)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 14 回	内科:感染症の主症状・臨床検査・病態(袴田康弘)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 15 回	内科:まとめ(荒井孝子)	内科学のまとめ			
第 1 回	外科:外科的侵襲の病態生理・ショック(西田正人)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 2 回	外科:術前・術後管理と術後合併症(1)(渡邊昌也)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 3 回	外科:術前・術後管理と術後合併症(2)(大端考)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 4 回	外科:出血・止血・輸血療法(瀧 雄介)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 5 回	外科:腫瘍に対する外科的治療(間 浩之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			

第6回	外科:熱傷管理(八木宏明)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第7回	外科:術中管理:全身麻酔・局所麻酔と術中の看護に必要な知識(森本恵理子)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第8回	外科:主な術式:呼吸器疾患と看護(広瀬正秀)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第9回	外科:救急外科、外傷、外科的感染症(佐藤真輔)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第10回	外科:主な術式:心臓血管外科疾患と看護(恒吉裕史)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第11回	外科:主な術式:脳神経外科疾患と看護(佐藤宰)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第12回	外科:主な術式:乳腺疾患と看護(速水亮介)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第13回	外科:主な術式:骨・関節疾患と看護(松岡秀明)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第14回	外科:主な術式:消化器疾患と看護(金本秀行)	事前:eテキスト購読 事後:授業のまとめ
第15回	外科:まとめ(荒井孝子)	外科学のまとめ
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	症候論を履修していること	
【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論	
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提である。 筆記試験 100%で評価する。そのうち内科 50%(DP1-2:到達目標1に対応)、外科 50%(DP1-2:到達目標1~3に対応)の成績で総合的に評価する。内科・外科それぞれ6割以上の点数を合格の条件とする。	
【フィードバックの方法】	講師への質問についてはユニパを介して回答する。	
【テキスト】	下記の電子テキストを購入し、PCにダウンロードしておくこと。 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2]呼吸器/浅野浩一郎ほか/医学書院/978-4-260-03569-9 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3]循環器/吉田俊子ほか/医学書院/978-4-260-03557-6 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4]血液・造血器/飯野京子ほか/医学書院/978-4-260-03571-2 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5]消化器/南川雅子ほか/医学書院/978-4-260-03562-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6]内分泌・代謝/黒江ゆり子ほか/医学書院/978-4-260-03559-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]脳・神経/井手隆文ほか/医学書院/978-4-260-03561-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8]腎・泌尿器/今井亜矢子ほか/医学書院/978-4-260-03558-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症/岩田健太郎ほか/医学書院/978-4-260-03858-4 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論最新版/池上 徹他(編)/医学書院/978-4-260-04998-6 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 最新版/北川雄光他(編)/医学書院/978-4-260-04990-0	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 医師として臨床実務経験を有する教員が各病態を解説する。機能形態学(解剖・生理学)、症候論の基礎的知識が必要不可欠となる。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	公衆衛生学	【科目英語名】	Public Health
【開講時期】	1年前期／編入3年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	2単位
【科目責任者】	* 榊原直喜		
【担当教員】	* 榊原直喜、* 井上健一郎、三崎健太郎、* 予定教員		
【授業の概要】	本授業は、健康課題との関連を整理する視点を養い、集団の特性に応じた健康への対応を理解することを目的とする。人口動態やライフスタイルおよびその変化、ならびにさまざまな社会環境要因に関連する健康事象を題材として取り上げ、それらに対する関係法規および制度的対応を総合的に学ぶ。これにより、現在の看護や医療がどのような背景のもとで成り立っているのかを具体的にイメージできることを目指す。		
【キーワード】	人口動態、ライフスタイル、健康課題、社会環境要因、健康対策の仕組み(法制度)		
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 公衆衛生の基本的な考え方と目的を理解できる。 2. 集団の特徴やその変化、ならびにさまざまな社会環境要因と健康事象との関連について理解できる。 3. 国内外における公衆衛生施策の仕組みや関係法規について基本的な考え方を理解できる。 4. 公衆衛生的な視点から、社会的動向と看護医療との関係を理解し、その理想的なあり方について考えることができる。		
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料に基づいて講義を行う。		
【授業計画】	【授業内容】※各授業の順番は変更することがある	【事前・事後課題】	
第1回	公衆衛生学とは(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第2回	健康の測定と健康指標、人口統計、その他の統計(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第3回	主な疾病の予防① 循環器系疾患、糖尿病・メタボリックシンドローム(井上健一郎)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第4回	主な疾病の予防② 感染症、がん、その他の疾患(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第5回	環境保健① 空気の衛生、水の衛生、公害と環境問題(井上健一郎)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第6回	環境保健② 衣食住の衛生、廃棄物、その他(三崎健太郎)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第7回	地域保健と保健行政、行政保健師の人材育成(国と自治体における実際)(予定教員)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第8回	母子保健の現状・課題と対策(国と自治体における実際)(予定教員)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第9回	子どもの健康状況、学校保健の組織と運営、学校保健教育(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第10回	高齢者の生活と健康と保健政策、終末期医療(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第11回	精神保健の現状・課題と対策(精神保健活動の実際) 難病保健の現状・課題と対策(国と自治体における実際)(予定教員)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第12回	労働者の健康、労働災害・事故、職場における健康管理	事前:テキスト対応箇所を読んでくること	

	(榊原直喜)	事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験
第 13 回	国際保健、日本・世界の国際保健活動(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験
第 14 回	災害保健、地域の災害保健計画(榊原直喜)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義の要点のまとめ、リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験
第 15 回	まとめ	事前:第 14 回までの要点のまとめ
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度	
【履修条件】	なし	
【関連科目】	保健医療統計学・疫学	
【評価方法】	成績評価は、定期試験(100%)の成績のみにより行う。なお、単位認定(定期試験受験資格)を得るためには、開講回数 3 分の 2 以上の出席を要する。また、各回の授業において、確認テストの実施または課題を課すものとする。確認テストの受験または課題の提出をもって出席とみなすものとし、未受験または未提出の場合(受験期限または提出期限を超過した者を含む。)は、カードリーダーによる出席登録の有無にかかわらず、欠席扱いとする。確認テストまたは課題の実施方法その他の詳細については、各回の担当教員の指示に従うものとする。出席状況、確認テストおよび課題の点数は、成績評価には一切用いない。 (DP1-2:到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	各回の授業冒頭に、ユニバ QA で受け付けた質問およびリフレクションペーパーに記載された質問へのコメント、ならびに確認テストや課題について解説を行う。	
【テキスト】	シンプル衛生公衆衛生学(最新版)／辻一郎、上島通浩／南江堂(「疫学」でも使用) 国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会(「保健医療統計学」「疫学」でも使用)	
【参考図書】	公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師/保健師、医師の実務経験、がん疫学研究・フィールド研究の経験、医療政策の実務経験のある教員が経験を生かした授業を行う。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】 可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	社会福祉論		【科目英語名】	Theories and Issues of Social Welfare	
【開講時期】	1 年後期/編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	江原 勝幸				
【担当教員】	江原 勝幸				
【授業の概要】	社会福祉の意義、理念、法・制度など社会福祉の基盤を学び、現代社会で援助を必要とする個人・家族及び地域社会の課題に対する支援や解決方法を理解する。その上で、保健医療と福祉が連携・協働して地域の生活課題に取り組む必要性やその方法について学ぶ。				
【キーワード】	ヒューマンライツ、ダイバーシティ、インクルージョン				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □P4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 社会福祉の意義、理念、目的など福祉実践の基盤となる人間尊重の原則について理解できる。 2. 現代社会の構造的な問題から生ずる多様で複合的な地域の生活課題の現状と課題を理解できる。 3. 看護学と社会福祉の関係を踏まえ、生活で困難を抱えている人々への包括的な支援について理解できる。				
【授業方法】	各授業の前半では、配布したレジュメ及び資料に沿った各授業テーマに即した講義を行う。 各授業の後半では、前半の授業テーマ・内容に関連するDVD映像を視聴し、配布したワークシートの講義及び映像に関する感想・意見・質問をまとめ記入し、授業の学びを深める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	「社会福祉」とは何か：現代社会と福祉	事前：社会福祉に色イメージをつけ、その色をつけた理由をノートにまとめる。 事後：自分の色イメージがどこからきて、なぜその色イメージなのか考察する。			
第 2 回	災害と福祉：誰一人取り残さないインクルーシブな防災活動	事前：要配慮者の避難行動や避難生活の問題や困難についてノートにまとめる。 事後：災害時に保健医療福祉専門職及び地域住民にできること・すべきことを整理し、その為の平常時からの取り組みをノートにまとめる。			
第 3 回	日本国憲法と福祉：基本的人権の本質	事前：日本国憲法前文を声に出して読んでおく。 事後：第 11 条、第 12 条、第 13 条、第 14 条第 1 項、第 25 条を中学生がわかる言葉で言い換えて条文を理解する。			
第 4 回	健康で文化的な生活とは：機能するセーフティネットへ	事前：生活困窮者を支える社会のセーフティネットについて概要を押さえておく。 事後：セーフティネットから零れ落ちる理由や原因を調べ、それを防ぐために必要な対応策について考察する。			
第 5 回	社会福祉の史的変遷：措置から権利擁護へ	事前：措置制度とサービス利用制度の特徴や違いを調べてノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域福祉計画と重層的支援体制整備事業の実施状況について調べてみる。			
第 6 回	保健医療と福祉の連携：Care by the Community の実現	事前：自分が居住する地域の特性や課題を調べノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域包括ケアシステムの実施状況について調べてみる。			
第 7 回	これからの社会と福祉：地域共生社会の実現に向けて	事前：我が国の人口動態（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移（実測値・推計値）を調べ、今後予想される日本社会の課題を調べノートにまとめる。 事後：第 1 講目でつけた色イメージを振り返			

				り、現段階での色イメージがどこからきて、なぜそのイメージなのか考察する。
第 8 回	まとめ			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度			
【履修条件】	なし			
【関連科目】	保健福祉行政論			
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 授業でのワークシート 60% (DP1-2:到達目標 1・2 に対応)、提出課題レポート 40% (DP1-2:到達目標 3 に対応)			
【フィードバックの方法】	第 1 講～第 6 講で実施するワークシートで書かれた感想等については必ず目を通し、その中で特に優れた視点や独創的な意見等及び質問への回答などをいくつか次回講義冒頭で紹介する。			
【テキスト】	なし。各授業時にレジュメ・関連資料配布し、参考資料を紹介する。			
【参考図書】	適宜紹介する			
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input checked="" type="checkbox"/> F 該当なし			
【実務経験のある教員による授業】	該当なし			
【その他】	特になし			
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】 可

【科目名】	保健福祉行政論		【科目英語名】	Health and Welfare Services	
【開講時期】	2年前期／編入4年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*東野 定津				
【担当教員】	*東野 定津、*木村 綾、*藤本 健太郎、*榊原 直喜、*山本 智美、*天野 ゆかり				
【授業の概要】	保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みを学ぶ。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。				
【キーワード】	保健福祉、保健行政、社会保障				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握し、課題を理解している。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学び、看護職の役割を理解している。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学び、看護職の関わりを理解している。				
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料を用いた講義により進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	保健医療福祉行政の仕組みと変遷(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第2回	公共健康の概念と医療保険(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第3回	高齢者福祉と介護保険制度(東野定津)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第4回	生活保護法、生活困窮者自立支援法(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第5回	児童家庭福祉と子供の健康(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第6回	雇用保険、労働者災害補償保険(木村綾)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第7回	社会保障と少子高齢化対策(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第8回	年金保険制度の持続と支援(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第9回	公私の連携で社会的孤立解消へ(藤本健太郎)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第10回	障害者福祉制度と地域活動(外部)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第11回	日本におけるがん対策の動向について(榊原直喜)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第12回	保健医療福祉政策の実際①(母子保健)(外部)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第13回	保健医療福祉政策の実際②(歯科衛生)(山本智美)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第14回	保健医療福祉政策の実際③(介護人材)(天野ゆかり)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はレポート 100% で評価する (DP5: 到達目標 1~3 に対応)。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				

【テキスト】	資料は適宜用意し、配布する				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当教員においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	保健医療統計学		【科目英語名】	Health Statistics	
【開講時期】	1年前期／編入3年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 榊原直喜				
【担当教員】	* 榊原直喜、* 濱井妙子				
【授業の概要】	<p>本授業は、健康に関する現状の把握や保健・医療活動の立案および評価に必要な基礎として、保健・医療統計資料の意味を理解し、統計数値を読み取り、正しく解釈するためのリテラシーを培うことを目的とする。死亡率、罹患率、有病率等の代表的な統計指標に加え、医療保障、国際指標、地域保健、環境保健、感染症などに関連する各種統計資料を題材として取り上げ、数値の背景や限界を踏まえた読み取り方と、適切な利活用について学ぶ。さらに、統計学の基礎的な考え方や保健・医療統計資料を用いて、地域社会における健康課題を数値に基づいて把握するための基礎的能力の修得を目指す。</p>				
【キーワード】	統計調査、保健医療データ、データリテラシー、健康指標、健康課題、保健政策				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計調査の目的・内容および、そこから得られる統計指標の種類と特徴を理解できる。 2. 代表的な健康指標について、その定義と意味を正しく理解し、数値の背景や前提条件、限界を考慮して解釈できる。 3. 調査データを用いて、基本的な統計指標を計算し、その結果を説明できる。 4. 統計資料を用いて、社会における健康課題を数値に基づいて把握できる。 5. 保健医療データと保健医療活動・保健政策との関係について、基本的な考え方を理解できる。 				
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題または確認テストを課す。				
【授業計画】	【授業内容】	※各授業の順番は変更することがある		【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション（榊原直喜） 保健統計の基礎① 統計指標（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第2回	保健統計の基礎② 統計調査（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第3回	人口静態統計① 国勢調査（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第4回	人口静態統計② 人口ピラミッド（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第5回	人口動態統計① 出生率、合計特殊出生率、その他（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第6回	人口動態統計② 死亡率、年齢調整死亡率（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第7回	人口動態統計③ 死因別死亡率（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第8回	生命表、平均寿命、健康寿命（濱井妙子）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第9回	疾病統計① 患者調査、推計患者数、受療率、平均在院日数、その他（榊原直喜）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験	
第10回	疾病統計② 国民生活基礎調査、有訴者率、通院者率、その他（榊原直喜）			事前：授業資料・テキストを読むこと 事：リフレクションペーパー・課題の提出、	

		確認テストの受験
第 11 回	疾病統計③ 国民健康・栄養調査、その他の保健統計 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第 12 回	疾病統計④ 感染症発症動向調査、食中毒統計、その他 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第 13 回	疾病登録(がん疾患、循環器疾患、その他) (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第 14 回	健康指標の国際比較 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第 15 回	まとめ	第 14 回までの講義の要点をまとめ、講義で 学んだ統計調査の最新の結果を復習する こと
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度	
【履修条件】	なし	
【関連科目】	公衆衛生学・疫学	
【評価方法】	成績評価は、定期試験(100%)の成績のみにより行う。なお、単位認定(定期試験受験資格)を得るためには、開講回数 の 3 分の 2 以上の出席を要する。また、各回の授業において、確認テストの実施または課題(演習問題等)を課すものとする。確認テストの受験または課題の提出をもって出席とみなすものとし、未受験または未提出の場合(受験期限または提出期限を超過した者を含む。)は、カードリーダーによる出席登録の有無にかかわらず、欠席扱いとする。確認テストまたは課題の実施方法その他の詳細については、各回の担当教員の指示に従うものとする。出席状況、確認テストおよび課題の点数は、成績評価には一切用いない。 (DP1-2:到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	各回の授業冒頭に、ユニパ QA で受け付けた質問およびリフレクションペーパーに記載された質問へのコメント、ならびに確認テストや課題について解説を行う。	
【テキスト】	国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (「公衆衛生学」「疫学」でも使用)	
【参考図書】	保健統計・疫学(最新版)／福富和夫、橋本修二／南山堂 (「疫学」でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師、薬剤師の実務経験やがん疫学研究・フィールド研究の経験のある教員が、経験を生かした講義を実施する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】 可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	情報処理演習		【科目英語名】	Seminar in Information Processing	
【開講時期】	1年後期／編入3年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*東野 定律				
【担当教員】	*東野 定律、*大久保 誠也				
【授業の概要】	看護研究を進めていく上で必要となるデータの理解、可視化はもとより、集計をはじめとする統計の手順について解説し、具体例を使用しながら説明を行う。				
【キーワード】	情報科学、統計処理、看護における情報				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 情報の概念、Word の使用方法を学び文章作成の知識を身につけている。 2. エクセルを用いてグラフや表作成方法を学び、使用方法に関する知識を身につけている。 3. データの理解、可視化、集計、統計処理の基本について理解している。				
【授業方法】	オンデマンド講義を中心とした Word や Excel といったソフトの使用方法をはじめとし、看護研究に必要とされるデータ処理、可視化、統計分析手法とその手順について、実際にコンピュータを使用しながら分析を行う。なお、講義した内容については、必ず演習問題を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	はじめに(計算機へのログイン)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第2回	情報とは(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第3回	文章作成の基礎(PCの基礎とメモ帳等による文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第4回	文章作成の基礎(MS-Wordによる文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第5回	表計算の基礎(MS-Excelによる表計算の基礎)(データの並び替え、データの集計:和、平均)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第6回	表計算の基礎(MS-WordとMS-Excelを組み合わせた利用)データ表現(棒グラフ、折線グラフ等)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第7回	中間まとめ(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第8回	基本統計量と統計的研究の予備知識、表形式のデータ説明、データ解析(データの種類、分析ツール、図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第9回	散布図・相関係数(データの図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第10回	回帰直線と近似曲線(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第11回	正規分布(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第12回	統計的推定(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第13回	統計的検定(データの比較)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第14回	独立性の検定(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第15回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 成績は演習問題 40%(DP1-2:到達目標 1~3に対応)と最終試験 60%(DP1-2:到達目標 1~3に対応)の結果により総合的に評価を行う。				

【フィードバックの方法】	演習課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニバ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。石村 友二郎他「Excel で学ぶ医療・看護のための統計入門」東京図書*のデータを使用しますので必ず持参のこと				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	疫学	【科目英語名】	Epidemiology
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	2単位
【科目責任者】	* 榊原直喜	【授業時間数】	30時間
【担当教員】	* 榊原直喜、* 濱井妙子		
【授業の概要】	本授業は、効果的な保健・医療活動の実施に必要な基礎として、人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を通して保健・医療に関する課題の把握・検討、ならびに解決に向けた視点を養うことを目的とする。そのために、疫学の歴史的背景、疫学で用いられる代表的な指標の理解、ならびに健康政策において疫学的な考え方がどのように用いられているかについて身近な事例を基に学習する。		
【キーワード】	健康事象の頻度と分布、危険因子、関連と因果、研究デザイン、健康政策		
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 疫学の概念を理解できる。 2. 疾病頻度を示す代表的な指標を計算し、その意味を解釈できる。 3. 疾病と危険因子の関連を示す代表的な指標を計算し、その意味を解釈できる。 4. 主な疫学研究方法の違いや特徴を理解し、利点と限界を説明できる。 5. 健康政策において疫学的な考え方がどのように用いられているかを理解できる。		
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題や確認テストを課す。		
【授業計画】	【授業内容】 ※各授業の順番は変更することがある	【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション(榊原直喜) 疫学の概念と歴史 (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第2回	疫学的因果論①疫学的病因論(疾病と曝露の関係、危険因子、多要因論など) (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第3回	疫学的因果論②因果関係の立証(因果関係の判断基準、因果関係の立証を困難にする要因:誤差・偏り・交絡) (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第4回	疫学指標①健康指標(罹患率、累積罹患割合、有病割合) (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第5回	疫学指標②関連の指標(死亡率、年齢調整死亡率) (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第6回	疫学指標③関連の指標(曝露効果:相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合) (濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第7回	スクリーニング検査の原理と方法(濱井妙子)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第8回	疫学研究法① 記述疫学、横断研究、生態学的研究 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第9回	疫学研究法② コホート研究 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第10回	疫学研究法③ 症例対照研究 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、確認テストの受験	
第11回	疫学研究法④ 介入研究 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読むこと 事:リフレクションペーパー・課題の提出、	

		確認テストの受験
第12回	疫学研究法⑤ メタアナリシス (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第13回	疫学研究における誤差 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第14回	疫学の応用 活用事例 (榊原直喜)	事前:授業資料・テキストを読んてくること 事:リフレクションペーパー・課題の提出、 確認テストの受験
第15回	まとめ	事前:第14回までの要点をまとめる
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60分程度	
【履修条件】	2年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目の内容を理解していること	
【関連科目】	2年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目	
【評価方法】	成績評価は、定期試験(100%)の成績のみにより行う。なお、単位認定(定期試験受験資格)を得るためには、開講回数3分の2以上の出席を要する。また、各回の授業において、確認テストの実施または課題(演習問題等)を課すものとする。確認テストの受験または課題の提出をもって出席とみなすものとし、未受験または未提出の場合(受験期限または提出期限を超過した者を含む。)は、カードリーダーによる出席登録の有無にかかわらず、欠席扱いとする。確認テストまたは課題の実施方法その他の詳細については、各回の担当教員の指示に従うものとする。出席状況、確認テストおよび課題の点数は、成績評価には一切用いない。 (DP1-2:到達目標1~4に対応)	
【フィードバックの方法】	各回の授業冒頭に、ユニパQAで受け付けた質問およびリフレクションペーパーに記載された質問へのコメント、ならびに確認テストや課題について解説を行う。	
【テキスト】	保健統計・疫学(最新版)／福富和夫、橋本修二／南山堂 (「保健医療統計学」でも使用)	
【参考図書】	国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (「公衆衛生学」「保健医療統計学」でも使用) シンプル衛生公衆衛生学(最新版)／辻一郎、上島通浩／南江堂 (「公衆衛生学」でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	*看護師、薬剤師の実務経験やがん疫学研究・フィールド研究の経験のある教員が、経験を生かした講義を実施する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

專 門 分 野

【科目名】	看護学概論	【科目英語名】	Introduction to Nursing
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 加藤京里		
【担当教員】	* 加藤京里、* 廣瀬允美、* 松田順		
【授業の概要】	激しく変革する医療を冷静に見据え、的確な看護を診断し、適切な治療的看護介入と看護成果が求められている。そのために看護の歴史的変遷から過去・現在・未来を探求し、看護の科学化に貢献する主な看護理論から看護学の主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」を学習し、基本的な看護の機能と役割を学ぶ。さらに看護に必要な倫理的側面と法的側面について考察し、看護実践者として意図的に実践するための論理的思考の基礎を培う。		
【キーワード】	看護の歴史、看護理論、看護の主要概念、看護の役割と機能、看護の専門性、看護倫理		
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の主要概念を説明できる。 2. 看護の歴史的変遷を説明できる。 3. 代表的な看護理論の概要を説明できる。 4. 看護専門職の役割、機能を説明できる。 5. 看護に関する法、専門職としての責務や倫理の基礎知識を説明できる。 6. 看護を意図的に実践するための論理的思考について説明できる。 		
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第 1 回	ガイダンス／看護とは(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 2 回	看護の対象の理解(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 3 回	健康と生活(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 4 回	看護の提供のしくみ(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 5 回	医療安全(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 6 回	看護における安楽(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 7 回	看護を実践するための思考過程(松田順)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 8 回	まとめ 1(加藤京里)	事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。	
第 9 回	看護における法(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 10 回	看護における倫理(松田順)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 11 回	看護理論: ナイチンゲール(廣瀬允美)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 12 回	看護理論: ヘンダーソン(廣瀬允美)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 13 回	看護の歴史(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 14 回	看護と教育(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。	
第 15 回	まとめ 2(加藤京里)	事前:第 9 回目から第 14 回目までの復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度		

【履修条件】	なし				
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰ				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験80%(DP1-2:到達目標1~3に対応)、課題学習20%(DP2:到達目標1~3に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	事後課題について次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論／茂野香おる他／医学書院／ ISBN978-4-260-03862-1 看護覚え書／フロレンス・ナイチンゲール、湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子他訳／現代社／ ISBN978-4-87474-142-9 看護の基本となるもの／バージニア・ヘンダーソン、湯槇ます・小玉香津子訳／日本看護協会出版会／ ISBN978-4-8180-1996-6				
【参考図書】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ ISBN978-4-260-04211-6 (第7回授業に使用)				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術 I	【科目英語名】	Basic Nursing Skills I
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	1 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 加藤京里		
【担当教員】	* 加藤京里		
【授業の概要】	看護技術は、看護の目的を達成するための方法であり、看護独自の知識体系に基づいて、対象の安全・安楽・自立・個別性を目指した意識的・意図的な行為である。本科目では、的確な判断に基づいた看護を実践するために、看護実践に共通して必要となる基本的な看護技術と生活過程を整える看護技術の目的や方法を理解することができる。		
【キーワード】	日常生活援助、環境調整、感染防止、安全、安楽		
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 看護技術を適切に実践するための要素を説明できる。 2. 感染防止に関する原則および安全管理の要点について説明できる。 3. 環境調整、食事、排泄、清潔・衣生活、活動・休息に関する基本的看護技術の目的・方法・留意点を説明できる。		
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義・一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。事前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第 1 回	オリエンテーション(加藤京里) 看護技術とは(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 2 回	安全確保の技術(加藤京里) 感染防止の技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 3 回	環境調整技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 4 回	活動・休息援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 5 回	清潔・衣生活援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 6 回	食事援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 7 回	排泄援助技術(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 8 回	まとめ(加藤京里)	事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習 I、基礎看護技術 II		
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1~3 に対応)		
【フィードバックの方法】	第 1 回から 7 回までの事後課題については、次回の講義時にフィードバックする。		
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護学[3]基礎看護技術 II / 任和子他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04212-3		

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護コミュニケーション論		【科目英語名】	Nursing Communication Theory	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 管原清子				
【担当教員】	* 管原清子、* 加藤京里、* 廣瀬允美 * 松田順、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、 * 予定教員				
【授業の概要】	援助的人間関係を体系づけるコミュニケーションの理論・考え方を学び、看護実践者に求められるコミュニケーションの基本的な知識を理解する。さらに看護に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。				
【キーワード】	コミュニケーション 援助的人間関係				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践に求められるコミュニケーションの基本的な知識を説明できる。 2. 他者を理解し、援助的人間関係を構築するための方法を記述できる。 3. 自己のコミュニケーションについてリフレクションを行い、自己の課題を述べることができる。 4. 立場や意見の違いを尊重しながら自分の考えを他者に伝え、建設的に議論できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義・一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	ガイダンス・コミュニケーションとは(管原清子)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 2 回	看護・医療におけるコミュニケーションの意義・目的(管原清子)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 3 回	コミュニケーションにおける基本的姿勢(管原清子)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 4 回	自己理解と他者理解(管原清子)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 5 回	看護におけるコミュニケーション(管原清子)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 6 回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 7 回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)		事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。		
第 8 回	まとめ(管原清子)		事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、基礎看護技術 I、基礎看護学実習 I				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1~3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第 1 回から 7 回までの事後課題について、次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション / ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習 / フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅱ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅱ	
【開講時期】	1年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60時間
【科目責任者】	*管原清子				
【担当教員】	*管原清子、*加藤京里、*廣瀬允美、*松田順、*浅原久恵、*小原陽子、*三沢萌伽、*予定教員				
【授業の概要】	看護の対象の健康課題を解決するために必要な看護技術の目的や方法を理解し、日常生活援助技術、呼吸・循環を整える技術、侵襲を伴う排泄ケアを習得する。 看護師役と患者役の演習体験を通して、看護実践に必要な基本的姿勢と態度を身につける。				
【キーワード】	日常生活援助、診療の補助				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 日常生活援助技術(環境調整、食事援助、排泄援助、活動・休息援助、清潔・衣生活援助)ならびに感染予防のための基本技術を身につけることができる。 2. 呼吸・循環を整える技術、苦痛緩和・安楽確保に関する基本技術を実施できる。 3. 侵襲を伴う排泄ケア(一時的導尿)を実施できる。 4. 看護実践に必要な基本的姿勢と態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。原則、講義・演習の1週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	オリエンテーション(管原清子)			事前:教科書の該当部分の確認を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。	
第2回	日常生活援助および感染予防の基本技術:講義(管原清子)			事前:教科書および基礎看護技術Ⅰの講義資料の復習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。	
第3回	苦痛緩和・安楽確保の技術:講義(管原清子)			事前:教科書の該当部分の確認を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。	
第4回	環境整備、標準予防策:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第5回	ボディメカニクス、体位変換、移乗・移送:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第6回	ボディメカニクス、体位変換、移乗・移送:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第7回	ベッドメイキング:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第8回	褥瘡法、安楽な体位:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第9回	リネン交換:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第10回	リネン交換:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第11回	バイタルサインの観察:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第12回	バイタルサインの観察:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第13回	全身清拭・寝衣の交換:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第14回	全身清拭・寝衣の交換:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第15回	全身清拭・寝衣の交換:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	
第16回	足浴:演習(担当者全員)			事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。	

第 17 回	洗髪:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 18 回	洗髪:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 19 回	食事摂取の介助、口腔ケア:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 20 回	食事摂取の介助、口腔ケア:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 21 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 22 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 23 回	無菌操作:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 24 回	無菌操作:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 25 回	まとめ 1(担当者全員)	事前:既習学習の復習を行う。 事後:学修した技術の復習を行う。
第 26 回	酸素療法、吸引、吸入:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 27 回	酸素療法、吸引、吸入:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 28 回	一時的導尿:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 29 回	一時的導尿:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 30 回	まとめ 2(担当者全員)	事前:既習学習の復習を行う。 事後:学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 80%(DP3:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の自己評価とする。指定の用紙で提出し、次回に授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ / 任和子他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04212-3 看護がみえる 1 基礎看護技術 / 藤本真記子他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術 / 近藤一郎他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント / 熊谷たまき他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-781-6	
【参考図書】	適宜紹介する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション / デイバート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習 / フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅲ	【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅲ
【開講時期】	1年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	1単位
【授業形態】		【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	* 廣瀬允美		
【担当教員】	* 廣瀬允美、* 松田順		
【授業の概要】	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱの既習内容をふまえて、看護の基本技術であるバイタルサインの観察、感染防止の技術、生体の機能障害の回復・緩和に関わる看護技術(呼吸・循環・体温を整える技術)を学修する。また、侵襲を伴う排泄ケアについて学修する。		
【キーワード】	バイタルサイン、感染防止、侵襲を伴う排泄ケア		
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 感染防止に関わる基本的な知識・技術(無菌操作)を説明できる。 2. 看護実践を適切に行うために必要な観察技術(バイタルサインの観察)を説明できる。 3. 酸素吸入療法、吸引、電法の適応と実施時の留意点を説明できる。 4. 侵襲を伴う排泄ケア(導尿、浣腸)の適応と実施時の留意点を説明できる。		
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜グループワークを行う。原則講義の1週間前に資料等を配布するので事前・事後の学習に活用する。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス(廣瀬允美) 感染防止の技術(松田順)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。基礎看護技術Ⅰの「感染防止の技術」の復習を行う。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第2回	バイタルサインの観察1(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第3回	バイタルサインの観察2(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。	
第4回	呼吸を整える技術(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。	
第5回	循環・体温を整える技術(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。	
第6回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。	
第7回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。	
第8回	まとめ(廣瀬允美)	事前:第1回目から第7回目までの復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	1年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。		
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ		
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標1~4に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標1~4に対応)		
【フィードバックの方法】	第1回から7回までの事前学習と振り返りに対し質問への返答やコメントを次回講義時にフィードバックする。		
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ/茂野香おる他/医学書院/ ISBN978-4-260-04992-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ/任和子他/医学書院/ ISBN 978-4-260-05688-5		

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-948-3 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜指示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護アセスメント演習		【科目英語名】	Nursing Health Assessment	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 廣瀬允美				
【担当教員】	* 廣瀬允美、* 加藤京里、* 松田順、* 管原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、* 予定教員、* 山内豊明(非常勤)				
【授業の概要】	看護の対象となる人間を身体的側面からアセスメントするために必要となるフィジカルイグザミネーションの基本的な知識と技術を習得する。				
【キーワード】	ヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2. フィジカルイグザミネーションに必要な基本的な知識と技術を学び、実施できる。 3. フィジカルイグザミネーションによって得られた情報をアセスメントし、その内容を正しい用語を用いて記録できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。事前に演習要項を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	ガイダンス・フィジカルアセスメント概論：講義(廣瀬允美)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定の課題学習を行う。	
第2回	呼吸器系フィジカルアセスメント：講義(廣瀬允美)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定の課題学習を行う。	
第3回	呼吸器系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第4回	呼吸器系フィジカルアセスメントの復習：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。	
第5回	循環器系フィジカルアセスメント：講義(廣瀬允美)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第6回	循環器系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第7回	腹部フィジカルアセスメント：講義(廣瀬允美)			事前：教科書の該当部分を熟読してくる。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第8回	腹部フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第9回	筋・骨格系フィジカルアセスメント：講義(三沢萌伽)			事前：教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第10回	筋・骨格系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第11回	脳・神経系フィジカルアセスメント講義：(山内豊明)			事前：教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。	
第12回	脳・神経系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)			事前：教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。	

		事後:指定課題の課題学習を行う。
第13回	脳・神経系フィジカルアセスメント:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を熟読する。 指定の課題学習を行う。 事後:指定の課題学習を行う。
第14回	全身のフィジカルアセスメント:演習(担当者全員)	事前:今まで習った部分全体を復習する。 指定の課題学習を行う。 事後:指定の学習を行う。
第15回	まとめ(担当者全員)	事前:全単元の復習を行う。 事後:学修内容の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度	
【履修条件】	1年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ	
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 70%(DP3:到達目標1~3に対応)、課題学習 30%(DP2:到達目標1~3に対応)	
【フィードバックの方法】	演習後に記録用紙を記載し指定日に提出する。授業の感想や質問については、次回講義時にフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04992-4 看護がみえる3フィジカルアセスメント / 熊谷たまき他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-781-6	
【参考図書】	適宜指示する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールで事前に知らせること。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	看護アセスメント方法論		【科目英語名】	Nursing Assessment Methodology	
【開講時期】	2年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15時間
【科目責任者】	*松田順				
【担当教員】	*松田順、*加藤京里、*廣瀬允美、*菅原清子、*浅原久恵、*小原陽子、*三沢萌伽、*予定教員				
【授業の概要】	事例を用いて看護過程を展開することで、その人の健康と生活上の問題(看護問題)を明確にし、解決するための技術と思考過程を学修する。				
【キーワード】	看護過程 看護診断 クリティカルシンキング ゴードンの機能的健康パターン				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践のための思考過程および看護過程の構成要素を説明できる。 2. 事例を用いて看護に必要な情報の収集分析、対象の看護問題の明確化、優先順位の決定、看題を解決するために必要となる具体的な計画の立案について、論理的に展開できる。 3. 立案した計画の実施、評価、修正の方法について説明できる。				
【授業方法】	初回にガイダンスを行う。授業は講義および一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワーク発表を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	看護過程講義1(看護過程とは)(松田順)	事前:関連する専門基礎分野、専門分野の科目を復習しておく。また、教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第2回	看護過程講義2(情報収集・アセスメント)(松田順)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第3回	事例展開1(情報の整理・アセスメント)個人及びグループワーク(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第4回	看護過程講義3(問題の明確化・関連図、計画立案)(松田順)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第5回	事例展開2(問題の明確化・関連図、計画立案)個人及びグループワーク(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第6回	看護過程講義4(実施・評価)(松田順)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第7回	看護過程事例展開の発表(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第8回	まとめ(松田順)	事前:教科書の該当部分を確認し、配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	1年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 課題学習 100%(DP2 80%、DP3 20%:到達目標1~3に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	課題学習については、演習時間内の助言ならびに課題へコメントを記入して返却することで対応する。 授業内容に関する質問や意見については、授業内で学生全員にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ/茂野香おる他/医学書院/ ISBN 978-4-260-04992-4				

	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン／マジヨリー・ゴードン 他／照林社 ／ISBN 978-4-796-52124-6 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第 13 版／T. ヘザー・ハードマン他／医学書院／ISBN 978-4-260-05712-7				
【参考図書】	実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版／任和子／照林社／ISBN978-4-7965-2549-7				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅳ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅳ	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	* 廣瀬允美				
【担当教員】	* 廣瀬允美、* 加藤京里、* 松田順、* 管原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、* 予定教員				
【授業の概要】	与薬に関する知識、非経口的栄養摂取の知識、検査に関する知識を学修し、注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血を安全に実施する看護技術をモデル人形を用いて習得する。				
【キーワード】	注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 無菌操作の基礎知識を踏まえた上で滅菌物の取り扱いができる。 2. 静脈血採血の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 3. 注射法の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 4. 浣腸を安全に実施できる。 5. 経鼻経管栄養法の技術をモデル人形を用いて安全に実施できる。 6. 演習を通して、看護師として求められる態度を養うことができる。 				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行い、適宜グループワークを行う。演習は学生同士やモデル等を用いて行う。原則、講義・演習の1週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス(管原清子) 検査に伴う技術1:講義(三沢萌伽)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第2回	検査に伴う技術2:講義(三沢萌伽)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。後日知識の確認テストを受け、間違えた箇所を各自振り返る。			
第3回	静脈血採血:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第4回	静脈血採血:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第5回	与薬の技術1:講義(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第6回	与薬の技術2:講義(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。後日知識の確認テストを受け、間違えた箇所を各自振り返る。			
第7回	注射1(薬物の吸い上げ、皮下注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第8回	注射2(筋肉内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第9回	注射3(静脈内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			

第 10 回	注射 4(静脈内注射):演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 11 回	浣腸:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 12 回	非経口的栄養摂取の援助・創傷管理:講義(廣瀬允美)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題学習を行う。後日知識の確認テストを受け、間違えた箇所を各自振り返る。
第 13 回	経鼻経管栄養法:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 14 回	経鼻経管栄養法:演習(担当者全員)	事前:配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。
第 15 回	まとめ(担当者全員)	事前:演習項目の復習を行う。 事後:学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	2 年次前期までに開講された専門基礎分野および専門分野 I を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術 I、基礎看護技術 II、基礎看護技術 III	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 60%(DP3:到達目標 1~5 に対応)、課題学習および知識の確認 40%(DP2:到達目標 1~5 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習後に学修した技術を振り返り、指定の用紙を提出する。説明が必要な質問等が生じた際は、次の授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04992-4 系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護学[3]基礎看護技術 II / 任和子他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-05688-5 看護がみえる 1 基礎看護技術 / 藤本真記子他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術 / 近藤一郎他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-734-2	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション / ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習 / フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	看護と倫理	【科目英語名】	Nursing Ethics		
【開講時期】	2年後期/編入4年後期	【必修区分】	必修/選択	【単位数】	1単位
【授業形態】	講義	【授業時間数】	15時間		
【科目責任者】	*松田順				
【担当教員】	*松田順				
【授業の概要】	社会の変化や医療の高度化により人々の価値観は多様化し、看護職は様々な倫理的課題に直面する。そのため、看護職は日常の看護実践に伴う倫理的感受性を高め、倫理的に思考し行動する必要がある。本科目では、看護倫理の歴史の変遷を学び、看護倫理とは何かを考え、看護倫理における基準や概念など倫理的知識を持った思考力を養う。				
【キーワード】	道徳、看護倫理、道徳的感受性、倫理的感受性、倫理的思考				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護倫理に関する知識を有している。 2. 看護専門職としての役割責任を考えることができる。 3. 倫理的課題について倫理的知識を持って思考できる。				
【授業方法】	教科書・配布資料を活用し授業を進める。また、毎回の授業で課題に対する討議を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	道徳と倫理	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第2回	看護倫理の歴史の変遷 徳の倫理、原則の倫理、ケアの倫理	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第3回	看護倫理に関係する重要な概念:和、コンパッション、共感、道徳的感受性と道徳的レジリエンス	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第4回	看護専門職としての役割責任:専門職、アドボカシー、協力と協働、倫理綱領	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第5回	日常の看護実践における倫理的課題:パターナリズムとインフォームドコンセント、プライバシーと守秘義務	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第6回	看護研究における倫理	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第7回	看護学生が経験する倫理的課題	事前:授業内容に該当する教科書の予習 事後:学修内容の整理			
第8回	まとめ	第1～7回までの学習内容の整理			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	専門領域の概論科目				
【評価方法】	開講回数数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 70%(DP2:到達目標2・3に対応)、小テスト 30%(DP1-2:到達目標1に対応)で評価する。 課題レポートの評価基準と小テストの時期については初回で説明する。				
【フィードバックの方法】	リアクションペーパーに回答した「授業の感想や質問」のフィードバックは、授業時に行う。 小テストの結果は授業時に開示する。				
【テキスト】	看護倫理 よい看護師への道しるべ 改訂第3版/編集 小西恵美子/南江堂/ISBN 978-4-524-22508-8				
【参考図書】	適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験を持つ教員が、日常の看護実践における倫理的課題の経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)

【科目名】	基礎看護学実習 I		【科目英語名】	Practice in Basic Nursing I	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	45 時間
【科目責任者】	* 加藤京里				
【担当教員】	* 加藤京里、* 廣瀬允美、* 松田順、* 管原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、* 予定教員				
【授業の概要】	入院している患者の療養生活を知り、患者と看護師および看護師間のコミュニケーションを学び、看護の実際について援助場面の参加を通して理解を深める。				
【キーワード】	療養生活、療養環境、看護援助、コミュニケーション				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 入院している患者の療養生活を理解することができる。 2. 看護の実際を理解することができる。 3. 看護に必要とされるコミュニケーションの基本を学ぶことができる。 4. 看護を学ぶ学生としての態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回到学内オリエンテーションを行う。学内実習にて実習ガイダンス・技術演習等を行い、臨地実習に臨む。実習要項・実習記録・その他資料は、学内オリエンテーション・ガイダンスにて配布する。 最終日には、実習のまとめとして成果発表会を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
	1. 学内実習 1) 実習ガイダンス 2) 施設別オリエンテーション 3) 技術演習(衛生的手洗い、個人防護用具の着脱) 2. 臨地実習 1) 実習する病院は原則 1カ所とする。 2) 病院見学および看護部講義を受ける。 3) 入院患者の療養生活を観察する。 4) 看護師とともに行動し、看護援助の見学および援助場面への参加をする。 5) 患者とのコミュニケーションを図る。 6) 実習後の振り返りを行い、実習の学びをグループメンバーと共有する。 7) 実習成果をまとめ、発表する。	【事前課題】 実習までに： ・看護学概論、基礎看護技術 I、看護コミュニケーション論の復習をする。 ・実習要項・実習記録を熟読する。 ・事前準備(持参物、体調管理、身だしなみ、実習施設までの移手段の確認)を行う。 実習 1 日目～3 日目： ・実習目標、行動計画を記載する。 【事後課題】 ・実習記録、実習レポートを記載する。 ・個人情報保護チェックリストを記載する。 ・実習目標に対する達成度を評価して振り返りを行い、自己の課題を見出す。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、基礎看護技術 I、看護コミュニケーション論				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の 2/3 以上の出席がなければ評価を受けることができない。 実習評価表に基づき、総合的に行う(DP3 60%、DP1-2 40%:到達目標 1~4 に対応)。				
【フィードバックの方法】	提出物については、コメントを記入して返却する。 実習中や終了時において、担当教員と面談を行う。				
【テキスト】	看護学概論・基礎看護技術 I・看護コミュニケーション論で用いるテキスト				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の臨床経験を有する教員が、その経験を活かして実習に必要な指導を行う。				
【その他】	詳細は実習要項を参照のこと。 感染症拡大の影響により、臨地実習が行えない場合には、学内に切り替え、内容を一部変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護学実習Ⅱ		【科目英語名】	Practice in Basic NursingⅡ	
【開講時期】	2年 通年	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	実習			【授業時間数】	90 時間
【科目責任者】	* 松田順				
【担当教員】	* 松田順、* 加藤京里、* 廣瀬允美、* 菅原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、* 予定教員				
【授業の概要】	健康障害を持つ対象に、看護師とともに基本的な看護援助を実践し、その意義を振り返り考察する。 また、患者を受け持ち、その対象の看護問題を解決するために必要な看護援助を立案し、実施、評価する。				
【キーワード】	看護援助、看護過程、フィジカル・イグザミネーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 対象を理解するために、コミュニケーション技術、フィジカル・イグザミネーション技術を用いて情報を収集できる。 2. 対象に提供する看護援助の根拠を説明できる。 3. 受け持ち患者の看護問題を抽出し、看護問題を解決するために必要となる計画を立案・実施・評価できる。 4. 看護職者としての態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にガイダンスを行う。 実習要項・実習記録・その他の資料はガイダンスで配布する。 実習は臨地で看護を実践する。 最終日には実習のまとめを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
	1. 実習ガイダンス・技術演習等 2. 臨地実習(前半実習) 1) 病院・病棟オリエンテーションを受ける。 2) 毎日の行動計画を立案し実施する。 3) 看護師とともに患者への看護援助を実践する。 4) カンファレンスを行い実習の学びをグループメンバーまた看護師と共有する。 3. 臨地実習(後半実習) 1) 毎日の行動計画を立案し実施する。 2) 受け持ち患者の情報を収集し、解釈する。 3) 受け持ち患者の看護問題を明らかにする。 4) 受け持ち患者の安全・安楽・自立を考えた看護計画を具体的に立案する。 5) 看護師とともに看護援助を実施し、評価する。 6) カンファレンスを行い実習の学びをグループメンバーまた看護師と共有する。 4. 実習のまとめ	事前: ・ 実習要項・実習記録を熟読する。 ・ 関連する専門基礎分野、専門分野の科目を復習する。 ・ 持ち物、身だしなみ、体調管理、実習施設までの移手段等の確認しておく。 ・ 実習期間中は毎日の行動計画を事前に立案し記録に記載する。その他、受け持ち患者のケアに必要な事前学習を行う。 事後: ・ 実習記録、実習レポートを記載する。 ・ 個人情報保護チェックリストを記載する。 ・ 実習目標に対する達成度を評価して振り返りを行い、自己の課題を見出す。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	1年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。 2年次に開講する「看護アセスメント演習」および「看護アセスメント方法論」を履修すること。				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ				
【評価方法】	原則として、全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。 実習評価表に基づき、総合的に行う(DP3 60%、DP2 40%:到達目標1~4に対応)				
【フィードバックの方法】	提出物については、コメントを記入して返却する。 実習中や終了時に、担当教員と面談を行う。				
【テキスト】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲで用いるテキスト				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験を持つ教員が、その経験を活かして実習に必要な指導を行う。				

【その他】	詳細は実習要項を参照のこと。 感染症拡大の影響等により臨地実習が行えない場合には、学内に切り替え、内容を一部変更することがある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	慢性看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Chronic Care Nursing	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*山田 紋子				
【担当教員】	*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*鈴木 郁美、*中岡 正昭、*長谷部 美紀				
【授業の概要】	慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などの慢性疾患を有する人々とその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護に関する学問である。本授業は、成人期を中心に、慢性疾患及び慢性期の治療を受けながら闘病・療養する人々とその家族を身体的・心理的・社会的に統合された存在として理解し、可能な限りその人らしい生活と人生を送るための看護実践に必要な基礎的知識を修得することを目的としている。				
【キーワード】	成人期の特徴、看護過程の展開、健康問題と看護支援				
【DPとの関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2. 成人期にある患者に対する看護過程の展開方法を理解できる。 3. 慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な主理論の概要を理解できる。 4. 代表的な慢性疾患を有する患者とその家族の特徴及び健康問題とそれに対する看護支援を理解できる。				
【授業方法】	講義、小グループディスカッション				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス/ライフステージからみた成人期の特徴と健康問題 (山田紋子・林みよ子)	事前:テキスト P.56-66 を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第2回	成人期にある患者に対する看護過程の展開①(山田紋子)	事前:看護過程展開方法の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第3回	成人期にある患者に対する看護過程の展開②(山田紋子)	事前:第2回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第4回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論① (山田紋子)	事前:第1回で学んだ成人期の特徴の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第5回	成人期にある患者の理解と看護実践に必要な理論② (山田紋子)	事前:第4回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第6回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の理解と看護実践に必要な理論(林みよ子)	事前:第4回・第5回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第7回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護① 内分泌疾患(小テスト)(前野真由美)	事前:糖尿病の病態・検査・治療の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第8回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護② 脳神経疾患(小テスト)(鈴木郁美)	事前:脳神経の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第9回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護③ 腎機能障害(小テスト)(林みよ子)	事前:腎臓の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第10回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護④ 肝機能障害(小テスト)(長谷部美紀)	事前:肝臓の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第11回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護⑤ 循環器・呼吸器疾患(小テスト)(中岡正昭)	事前:心臓と肺の解剖生理の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第12回	がん患者の看護①(山田紋子)	事前:テキスト P.197-220、232-238 を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第13回	がん患者の看護②(山田紋子)	事前:第12回の授業内容の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第14回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の家族への看護 (林みよ子)	事前:テキスト P.81-86 を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第15回	まとめ(山田紋子)	事前:テキストや授業資料の総復習 事後:各自で期末試験対策に取り組む			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学の単位を取得していること				

【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習、看護アセスメント方法論				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席を単位認定の前提とする 筆記試験80%(DP1-2:到達目標1~4に対応)と小テスト20%(DP1-2:到達目標4に対応)を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	小テスト:実施後に正解および問題項目ごとの配点を提示する。				
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学2~15／医学書院【病態学のテキスト】 ・NANDA-I看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院【看護アセスメント演習のテキスト】 				
【参考図書】	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床活用事例でわかる中範囲理論／黒田裕子／日総研／ISBN978-4-7760-1908-4 ・その他、適宜、授業中に紹介する 				
【アクティブラーニングを促す方法】	<input type="checkbox"/> A ディスカッション／ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他() <input type="checkbox"/> F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する。				
【その他】	・【事前課題】に取り組んで授業に臨む。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(日本語による授業)

【科目名】	慢性看護援助論演習		【科目英語名】	Seminar in Chronic Care Nursing	
【開講時期】	2年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*鈴木 郁美				
【担当教員】	*鈴木 郁美、*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*中岡 正昭、*長谷部 美紀、*植田 春美 *中村 卓樹				
【授業の概要】	慢性看護学概論で学習した知識を基盤として学ぶ科目である。本授業は、成人期を中心に、慢性疾患及び慢性期の治療を受けながら闘病・療養する人々とその家族が質の高い生活を継続するために必要な看護実践の基礎的知識と技術を修得することを目的としている。				
【キーワード】	慢性疾患患者の看護過程、健康教育、退院支援、倫理的問題				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 成人期にある慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の健康問題を理解できる。 2. 代表的な慢性疾患の紙上事例患者の看護問題の抽出とそれを解決するための看護計画を立案できる。 3. 糖尿病の紙上事例患者に対する健康教育をロールプレイで実施できる。 4. 慢性疾患を有する患者とその家族に対するチームでの退院支援の方法と課題を理解できる。 5. 慢性疾患患者とその家族が直面する倫理的問題とその対応についての自己の考えを説明できる。				
【授業方法】	講義、小グループディスカッション、ロールプレイ				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	ガイダンス、慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の特徴と健康問題(鈴木郁美・林みよ子)	事前:テキストのP.2-34を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第2回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者事例の看護展開① 内分泌疾患(前野真由美)	事前:慢性看護学概論第2・3・7回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第3回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育方法の検討① (前野真由美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第4回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育方法の検討② (前野真由美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第5回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育のロールプレイ ①(前野真由美他)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第6回	糖尿病紙上患者の自己管理確立に向けた教育のロールプレイ ②(前野真由美他)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第7回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(1)(鈴木郁美)	事前:慢性看護学概論第2・3・8回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第8回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(2)(鈴木郁美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第9回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開② 脳神経疾患(3)(鈴木郁美)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第10回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(1)(林みよ子)	事前:慢性看護学概論第2・3・9回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第11回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(2)(林みよ子)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第12回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開③ 腎障害(3)(林みよ子)	事前:授業時に提示する課題に取り組む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第13回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の看護展開④ 循環器・呼吸器疾患(中岡正昭)	事前:慢性看護学概論第11回の復習 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第14回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者の退院支援 (植田春美)	事前:テキストP.26-34、44-47を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
第15回	慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者とその家族の直面 する倫理的問題(植田春美)	事前:テキストP.35-43を読む 事後:授業で学んだ内容をまとめる			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学の単位を取得していること				
【関連科目】	慢性看護学概論、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学、看護アセスメント演習				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする 紙上事例の看護展開記録 60%(DP2:到達目標 1~2・4~5 (に対応)と事例患者の教育用パンフレット 40% (DP3:到達目標 2~3 (に対応)を総合して評価する				
【フィードバックの方法】	・提出物:3 月末までに返却する ・ロールプレイ:実施時に担当教員が口頭で助言する				
【テキスト】	・慢性期看護(病気とともに生活する人を支える)／鈴木久美 他／南江堂／ISBN978-4-524-23436-3 ・系統看護学講座・専門分野Ⅱ・成人看護学 2~15／医学書院【病態学のテキスト】 ・NANDA-I 看護診断(定義と分類)／上鶴重美監訳／医学書院【看護アセスメント演習のテキスト】				
【参考図書】	・臨床活用事例でわかる中範囲理論／黒田裕子／日総研／ ISBN978-4-7760-1908-4 ・その他、適宜、授業中に紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク ■E その他(ロールプレイ) □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師として慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者に対する臨床実践経験を有する教員が教授する				
【その他】	・特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	慢性看護学実習	【科目英語名】	Practice in Chronic Care Nursing
【開講時期】	3年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	実習	【単位数】	2単位
【授業時間数】		【授業時間数】	90時間
【科目責任者】	*山田 紋子		
【担当教員】	*山田 紋子、*林 みよ子、*前野 真由美、*鈴木 郁美、*中岡 正昭、*長谷部 美紀、*植田 春美、*中村 卓樹		
【授業の概要】	実習は、概論及び援助論演習で学習した知識・技術を医療現場で活用しながら対象との直接的なかかわりを通して実践的に学び、これらの学びを通して看護職の役割および機能、多職種との連携の実際を学ぶ科目である。本授業では、援助的人間関係を築きながら、成人期あるいは老年期にある慢性疾患を有する患者・慢性期にある患者とその家族を総合的に理解し、科学的根拠に基づく看護実践を展開するための知識・技術・態度を修得することを目的とする。		
【キーワード】	慢性看護、援助的人間関係、対象の総合的理解、科学的根拠に基づく看護実践		
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 ■DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解して看護問題を抽出できる。 2. 抽出した受け持ち患者の看護問題に対する看護計画を立案・実施・評価することができる。 3. 受け持ち患者とその家族と援助的人間関係を発展させることができる。 4. 実習での体験を通して看護職の役割・機能および多職種との連携・協働の必要性を説明できる。 5. 医療の現場で出会う矛盾や葛藤に対して建設的な意見を述べることができる。 		
【授業方法】	原則として1名の慢性疾患を有する患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、全体像の統合、看護計画の立案を行う。立案した看護計画に基づいてケアを実践し、看護過程の評価・修正を行う。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
1日目	実習内容と実習病棟のオリエンテーションを受ける。	【事前課題】	
2日目	受け持ち患者を決定し、情報収集を行う。	1日目:慢性看護学概論・慢性看護援助論演習で学習した看護過程展開方法や理論・モデルの復習	
3日目	受け持ち患者に病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、不足する情報を収集しアセスメントを開始する。カンファレンスを行う。	2日目以降:学内日を除く毎日、行動計画を立案する。	
4日目	(学内日)収集した情報の整理、アセスメント、全体像の統合、看護問題の明確化を行う。	5日目:実習評価表に基づいて中間評価を行い、2週目の課題を明確にする。	
5日目	受け持ち患者に対して、病棟の看護計画に沿ったケアを実践しながら、明確化した看護問題に対する看護計画を立案する。カンファレンスを行う。	9日目:記録用紙「看護過程・実習のまとめ」に看護要約を記録する。	
6日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践する。実践を評価し、アセスメント・全体像・看護計画の妥当性を検討し、必要に応じて修正する。カンファレンスを行う。	10日目:評価表の最終評価をする。	
7日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。	【事後課題】	
8日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。カンファレンスを行う。	その日の実習内容を振り返り、行動計画の評価と実習進度に応じた実習記録用紙に記録する。	
9日目	(学内日)看護過程の整理、実習のまとめにとりかかる。		
10日目	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護計画を評価・修正する。看護過程のまとめとして看護要約を作成する。カンファレンスを行う。		
	立案した看護計画に沿ってケアを実践し、看護過程の最終的な評価をする。最終カンファレンスと、評価面接を行う。		
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90分程度		
【履修条件】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習の単位を取得していること		
【関連科目】	慢性看護学概論、慢性看護援助論演習、機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論、病態学		
【評価方法】	全実習日数(学内日含む)の2/3以上の出席がなければ評価を受けることができない。 「慢性看護学・急性期看護学評価表」100%(DP3、DP4:到達目標1~5に対応)に基づいて評価する。		
【フィードバックの方法】	<ul style="list-style-type: none"> ・実践:実施後に担当教員あるいは実習指導者から口頭でコメントする ・実習記録:担当教員による記録へのコメントの記載あるいは口頭でコメント・助言する。 ・実習全体:実習終了後の評価面接で担当教員から口頭でコメント・助言する。 		